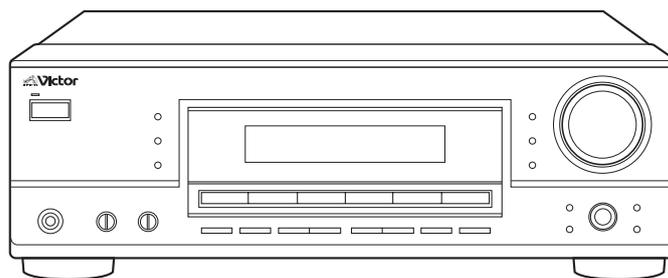
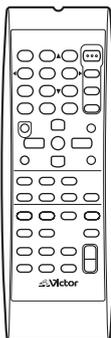
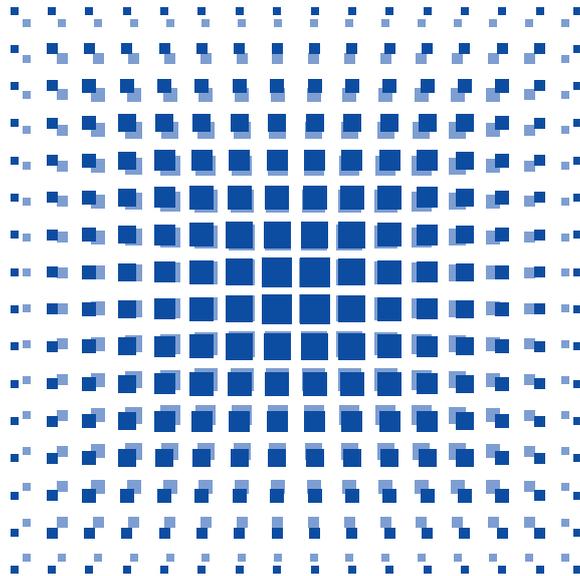
AUDIO/VIDEO コントロールアンプ

型名 **RX-V603**

Audio/Video Control Amplifier

RX-V603

お買い上げいただき、ありがとうございます。

⚠ ご使用の前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

特に *4*～*6* ページの「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。

お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

LVT1532-001A

はじめに

本機の特長

ドルビーデジタルデコーダー搭載
映画館や劇場に匹敵する臨場感を再現するドルビーデジタル5.1chサラウンドに対応。センタースピーカー、サラウンドスピーカーやサブウーハーを接続することにより、迫真の立体音場の再生が可能です。DTSデジタルサラウンドにも対応しています。

デジタル処理によるドルビープロロジックⅡサラウンド
ドルビープロロジックⅡデコーダーを内蔵。これによりすべての2ch音声(通常のステレオ音声とドルビーサラウンド方式で記録された音声)を5.1chで聞くことができます。また、従来のドルビープロロジック方式に比べて、リアスピーカーの高音域も再生することができます。立体感・包囲感のあるサラウンドがお楽しみいただけます。

ホールの臨場感をさらに高めるDAPモード
世界の著名なコンサートホールやライブハウスなどの音場を、デジタル処理により創り出して再現。同じアーティストの演奏でも、違った雰囲気で楽しむことができます。

MPEG-2 AACデコーダー搭載
MPEG-2 AACとは、地上デジタルテレビ放送やBSデジタルテレビ放送で採用されている音声圧縮技術です。限られた放送帯域を使って最大5.1chまでのマルチチャンネル再生が可能です。

マイクミキシング
店内放送、校内放送などで、BGM(バックグラウンドミュージック)を流しながらアナウンスができます。

メイク接点入力端子搭載
本機の電源の「入/切」を、別売りのプログラムチャイム(PA-T30、PA-T130など)を利用して、外部接続機器でコントロールすることができます。

ビクター製品との連係プレイが可能
ビクター製のオーディオ機器などと組んで、ワンタッチでさまざまな連係プレイを可能にするコンピュリンク機能を搭載しています。

他社製のテレビ・ビデオデッキ・DVDプレーヤー対応のマルチブランドリモコン
付属のリモコンは、ビクター製品はもちろん国内外の他社製テレビ、ビデオデッキ、DVDプレーヤーをコントロールできます。

本機の置き場所について

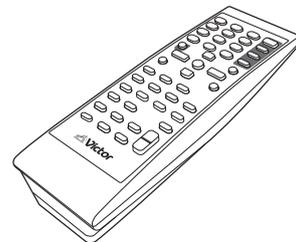
故障などを防止するため、以下の場所は避けてください。

- 湿気やほこりの多いところ
- 風通しの悪い狭いところ
- バランスの悪い不安定なところ
- 直射日光が当たるところ
- 熱器具の近く
- 極端に寒いところ
- 寒暖の差が激しいところ
  本機の使用環境温度は－5゜C～35゜Cです。この範囲外の温度で使用すると、正しく動作しなかったり故障の原因となったりします。
- 磁気を発生するところ
- OA機器やけい光灯のすぐそば
- 振動の激しいところ

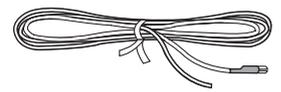
本体のお手入れ

パネル操作面が汚れたら柔らかい布で**からぶき**してください。汚れがひどいときは、水で布をしめらせるか、中性洗剤を少し布に付けてふき、あとで**からぶき**してください。
シンナーやベンジン、アルコールなどの化学薬品でふいたり、殺虫剤をかけないでください。変色したり表面の仕上げを損なうおそれがあります。

付属品

お使いになる前に付属品をお確かめください。
不足しているものがありましたら、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

リモコン（RM-SRXV603）
（1 個）

単 3 形乾電池（2 本）
（リモコン動作確認用）

AM ループアンテナ（1 個）

FM 簡易型アンテナ（1 個）

- このほかに、取扱説明書（本書）や保証書が添付されています。

■ **音楽を聞くときのエチケット**
音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

もくじ

お使いになる前に　ページ

ふだんの使いかた　ページ

調節・設定する　ページ

サラウンド　ページ

その他の操作　ページ

知っておいてほしいこと　ページ

安全上のご注意 ーはじめにお読みくださいー

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

● この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示しています。

⚠注意

● この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「傷害を負ったり物的損害が想定される」内容を示しています。

●絵表示の説明

注意をうながす記号

一般的注意

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

水ぬれ禁止

行為を指示する記号

一般的指示

電源プラグを抜く

⚠警告

万一、次のような異常が発生したときはすぐ使用をやめる。

電源プラグを抜く

- 煙が出ている、へんなにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ってしまったとき
- 落としたり、破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

すぐに電源を「切」にし、必ず電源プラグをコンセントから抜きます。異常が発生したまま使用していると、火災や感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

分解や改造をしない。カバーを外さない。

分解禁止

火災や感電の原因となります。
内部の点検や修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグに触れない。

接触禁止

感電の原因となります。

風呂場やシャワー室では使用しない。

水場での使用禁止

本機の中に水が入ると、火災や感電の原因となります。

本機の中に物を入れない。

禁止

通風孔などから、金属物や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。特に小さいお子様のいるご家庭では注意してください。

本機の上に水などの入った容器を置かない。

禁止

花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など水の入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に水が入った場合は、火災や感電の原因となります。

電源コードを傷つけない。

禁止

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。
特に、次のことに注意してください。

- 電源コードを加工しない
- 電源コードを無理に曲げない
- 電源コードをねじらない
- 電源コードを引っ張らない
- 電源コードを熱器具に近づけない
- 電源コードの上に家具などの重い物をのせない

⚠警告

電源プラグは根元まで確実に差し込む。

差し込みが不完全ですと、発熱したりほこりが付着して火災や感電の原因となります。また、たこ足配線も、コードが熱を持ち危険ですのでしないでください。

電源プラグは定期的に清掃する。

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを乾いた布で取り除いてください。

電池は放置しない。

電池を取り外したときは、幼児の手の届かないところに置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

表示された電源電圧(交流100ボルト)で使用する。

表示された電源電圧以外では、火災・感電の原因となります。
本機を使用できるのは日本国内のみです。

This set is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

本機の包装に使用しているポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かない。

頭からかぶると窒息の原因となります。

⚠注意

通風孔をふさいだり、風通しの悪い場所で使用しない。

本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。特に次のことに注意してください。

・ あお向けや横倒し、逆さまにしない
・ 本箱、押し入れなど風通しの悪い狭い所に押し込まない
・ テーブルクロスを掛けない
・ 本や雑誌などをのせない
・ じゅうたんや布団の上に置かない
・ 設置する場合は、壁から10cm 以上離す。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から10cm以上、背面から10cm 以上のすきまをあけてください。

設置場所に注意する。

次のような所に設置すると、火災や感電、故障の原因となることがあります。

・ 湿気やほこりの多いところ
・ 直射日光の当たるところや、熱器具の近くなど高温になるところ
・ 窓ぎわなど水滴の発生しやすいところ
・ 調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たるところ
・ 不安定なところ
・ 振動の激しいところ

寒い所から急に暖かい部屋へ移動したときは、約1～2時間待ってから電源を入れてください。

使用中の本体の温度上昇について

使用状態によっては、本体の温度が上昇することがありますが、これは故障ではありません。
特に、大音量で使い続けると本体キャビネットが熱くなります。このようなときは、火傷などの原因となりますので本体には触れないようにしてください。

⚠注意

本機の上に重い物を置かない。

テレビなどの重い物や本機からはみ出るような大きな物を置くと、バランスがくずれて倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

お手入れをするときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。電源プラグがコンセントに接続されていると、感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜く

移動するときは、接続コード類や電源プラグを抜く。

接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜く

はじめから音量を上げすぎない。

突然大きな音が出て、スピーカーを破損したり、聴力障害の原因となることがあります。
電源を切る前に音量（ボリューム）を下げておき、電源が入ってから徐々に上げてください。

一般的指示

電源プラグは、コードの部分を持って抜かない。

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。
電源プラグを持って抜いてください。

禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

長期間使用しないときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。安全および節電のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源プラグを抜く

3年に一度は内部の清掃を販売店に依頼する。

内部にほこりがたまったまま使用すると、火災の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。

一般的指示

電池の取り扱いに注意する。

電池の取り扱いを誤ると、電池が破裂したり、液もれして、火災･けがや周囲を汚す原因となることがあります。
次のことに注意してください。

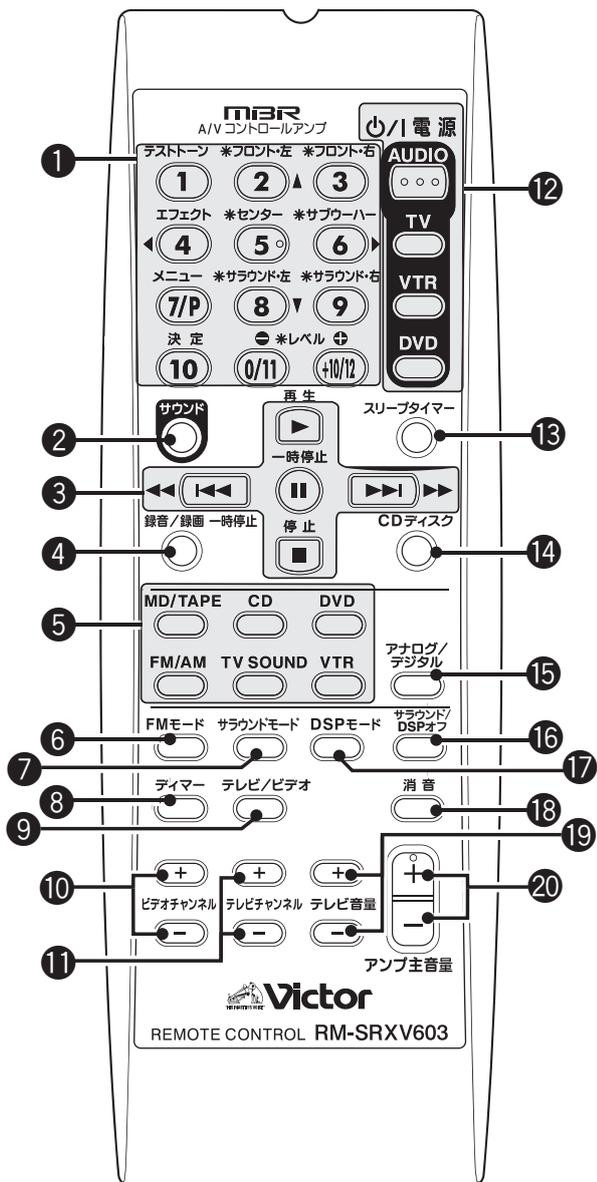
禁止

- 指定以外の電池を使用しない
- 電池のプラス（＋）とマイナス（－）を間違えない
- 電池を加熱しない
- 分解しない
- 火や水の中に入れない
- 新しい電池と一度使用した電池を混ぜて使用しない
- 種類の違う電池と混ぜて使用しない
- 乾電池は充電しない
- 長期間使わないときは、電池を取り出しておく

もし、電池が液もれをしてしまったときは、電池ケースについた液をよく拭きとってください。万一、もれた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

「JIS C 61000－3－2 適合品」
JIS C 61000－3－2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第3－2部：限度値－高調波電流発生限度値（1相当りの入力電流が20A以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計･製造した製品です。

各部の名前　—（ ）内のページに説明があります。—

リモコン

❶ **数字ボタン**
- チューナープリセットボタン(➡ ***25*** ページ)
- スピーカーレベル調節ボタン(➡ ***41*** ページ)
- 数字ボタン(➡ ***43*** ページ)
- DVDメニューボタン(➡ ***44*** ページ)

❷ **サウンドボタン(➡ *41* ページ)**

❸ **AV機器操作ボタン(➡ *43*、*44*、*46* ページ)**
- ►(再生)ボタン
- ■(停止)ボタン
- I◄◄(◄◄)ボタン
- ►►I(►►)ボタン
- II(一時停止)ボタン

❹ **録音/録画 一時停止ボタン(➡ *43*、*44* ページ)**

❺ **ソース(音源)選択ボタン(➡ *19* ページ)**
- MD/TAPEボタン
- CDボタン
- DVDボタン
- FM/AMボタン
- TV SOUNDボタン
- VTRボタン

❻ **FMモードボタン(➡ *25* ページ)**

❼ **サラウンドモードボタン(➡ *39* ページ)**

❽ **ディマーボタン(➡ *21* ページ)**

❾ **テレビ/ビデオボタン(➡ *44*、*45* ページ)**

❿ **ビデオチャンネル(+/−)ボタン(➡ *44*、*46* ページ)**

⓫ **テレビチャンネル(+/−)ボタン(➡ *44*、*45* ページ)**

⓬ **⏻/I 電源ボタン(➡ *19*、*44*～*46* ページ)**
- AUDIOボタン
- TVボタン
- VTRボタン
- DVDボタン

⓭ **スリープタイマーボタン(➡ *20* ページ)**

⓮ **CDディスクボタン(➡ *43* ページ)**

⓯ **アナログ/デジタルボタン(➡ *21* ページ)**

⓰ **サラウンド/DSPオフボタン(➡ *39*、*40* ページ)**

⓱ **DSPモードボタン(➡ *40* ページ)**

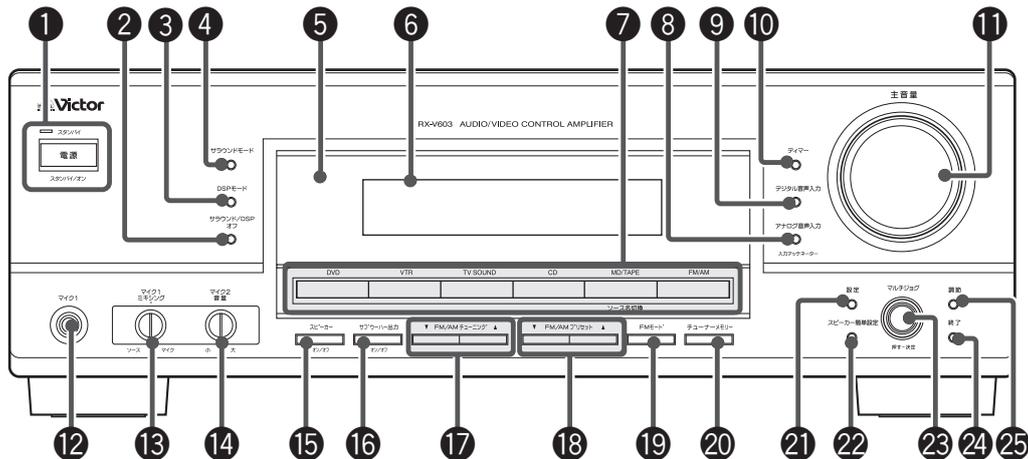
⓲ **消音ボタン(➡ *20* ページ)**

⓳ **テレビ音量(+/−)ボタン(➡ *44*、*45* ページ)**

⓴ **アンプ主音量(+/−)ボタン(➡ *19* ページ)**

各部の名前（つづき） —（ ）内のページに説明があります。—

本体

前　面

① **電源(スタンバイ/オン)ボタンとスタンバイランプ**(➡ ***18*** ページ)
電源の「**入**」⟷「**切**」をするときに押します。
スタンバイランプは、電源を「**切**」にすると赤く点灯し、電源を「**入**」にすると消えます。

② **サラウンド/DSPオフボタン**(➡ ***39*** ページ)

③ **DSPモードボタン**(➡ ***40*** ページ)

④ **サラウンドモードボタン**(➡ ***39*** ページ)

⑤ **リモコン受光部**(➡ ***17*** ページ)

⑥ **表示窓**

⑦ **ソース(音源)選択ボタン**(➡ ***18***、***21***、***22***、***24*** ページ)
・DVD、VTR、TV SOUND、CD、MD/TAPE、FM/AM

⑧ **アナログ音声入力/入力アッテネーターボタン**(➡ ***21***、***22*** ページ)

⑨ **デジタル音声入力ボタン**(➡ ***21*** ページ)

⑩ **ディマーボタン**(➡ ***21*** ページ)

⑪ **主音量つまみ**(➡ ***18*** ページ)

⑫ **マイク1端子**(➡ ***23*** ページ)

⑬ **マイク1ミキシングつまみ**(➡ ***23*** ページ)

⑭ **マイク2音量つまみ**(➡ ***23*** ページ)

⑮ **スピーカーオン/オフボタン**(➡ ***20*** ページ)

⑯ **サブウーハー出力オン/オフボタン**(➡ ***22*** ページ)

⑰ **FM/AMチューニング▲/▼ボタン**(➡ ***24*** ページ)

⑱ **FM/AMプリセット▲/▼ボタン**(➡ ***25*** ページ)

⑲ **FMモードボタン**(➡ ***25*** ページ)

⑳ **チューナーメモリーボタン**(➡ ***25*** ページ)

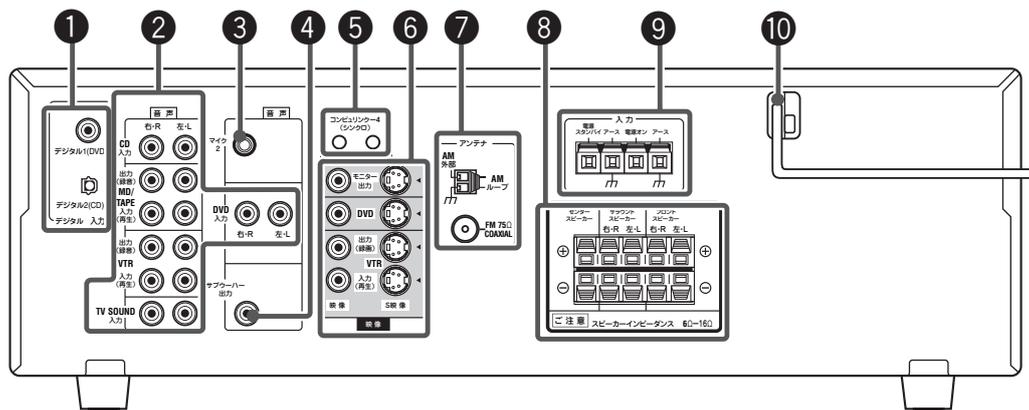
㉑ **設定ボタン**(➡ ***28*** ページ)

㉒ **スピーカー簡単設定ボタン**(➡ ***26*** ページ)

㉓ **マルチジョグつまみ**(➡ ***26***、***28***、***34*** ページ)

㉔ **終了ボタン**(➡ ***23***、***28***、***34***ページ)

㉕ **調節ボタン**(➡ ***34*** ページ)

背　面

① **デジタル入力端子**(➡ ***13***、***14*** ページ)
外部機器のデジタル音声端子と接続します。同軸デジタル端子と、光デジタル端子があります。デジタル1(DVD)、デジタル2(CD)

② **音声入出力端子**(➡ ***13***～***15*** ページ)
入力端子：CD入力、MD/TAPE入力(再生)、VTR入力(再生)、TV SOUND入力、DVD入力
出力端子：MD/TAPE出力(録音)、VTR出力(録音)

③ **マイク2端子**(➡ ***23*** ページ)

④ **サブウーハー出力端子**(➡ ***12*** ページ)
アンプ内蔵サブウーハーを接続します。

⑤ **コンピュリンク-4(シンクロ)端子**(➡ ***42*** ページ)
ビクター製のコンピュリンク対応オーディオ機器のコンピュリンク端子と接続します。

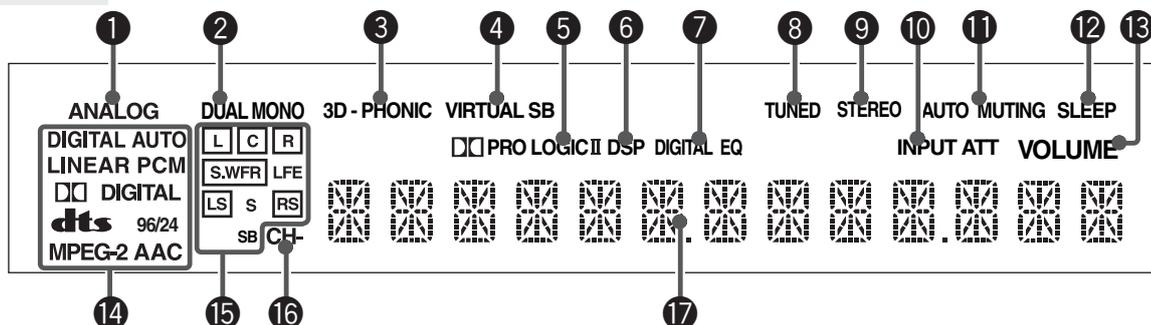
⑥ **映像入出力端子**(➡ ***13***～***15*** ページ)
入出力ともに、コンポジット端子とS端子があります。
入力端子：DVD、VTR入力(再生)
出力端子：モニター出力、VTR出力(録画)

⑦ **アンテナ端子**(➡ ***10*** ページ)
FM/AM放送用アンテナを接続します。

⑧ **スピーカー端子**(➡ ***12*** ページ)
スピーカーを接続します。

⑨ **メイク接点入力端子**(➡ ***16*** ページ)

⑩ **電源コード**(➡ ***17*** ページ)
家庭用のコンセント(交流 100V)に接続します。

表示窓

❶ ANALOG表示(➡ ***21*** ページ)

❷ DUAL MONO表示(➡ ***37*** ページ)

❸ 3D-PHONIC表示(➡ ***38***、***40*** ページ)
3D-PHONICを使っているとき点灯します。

❹ VIRTUAL SB表示(➡ ***33***、***40*** ページ)
バーチャルサラウンドバックを使っているとき点灯します。

❺ DD PRO LOGIC II表示(➡ ***37***、***38*** ページ)

❻ DSP表示(➡ ***38*** ページ)

❼ DIGITAL EQ表示(➡ ***35*** ページ)

❽ TUNED表示(➡ ***24*** ページ)

❾ STEREO表示(➡ ***24*** ページ)

❿ INPUT ATT表示(➡ ***22*** ページ)
インプットアッテネーターを使っているとき点灯します。

⓫ AUTO MUTING表示(➡ ***25*** ページ)

⓬ SLEEP表示(➡ ***20*** ページ)
おやすみタイマーを使っているとき点灯します。

⓭ VOLUME表示(➡ ***18*** ページ)

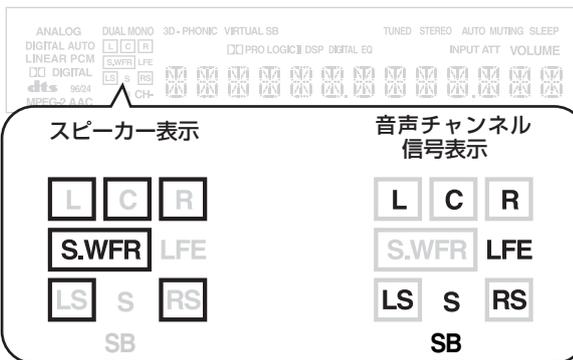
⓮ デジタル音声フォーマット表示(➡ ***21***、***37*** ページ)
DIGITAL AUTO表示、LINEAR PCM表示、DD DIGITAL表示、DTS表示、DTS 96/24表示、MPEG-2 AAC表示

⓯ スピーカー表示/音声チャンネル信号表示
入力している音声チャンネル信号と、スピーカーの動作状態に合わせて点灯します。下の「スピーカー表示/音声チャンネル信号表示について」をご覧ください。

⓰ CH-表示(➡ ***25*** ページ)

⓱ 文字表示部
サラウンドモード名やソース(音源)名などを表示します。

スピーカー表示/音声チャンネル信号表示について

スピーカーと、入力している音声チャンネル信号を表示します。

スピーカー表示

音声が出力されているスピーカーのスピーカー表示が点灯します。

- サブウーハーの設定を「YES」にしているときは(➡ ***29*** ページ)、S.WFR表示が点灯します。
- サブウーハー以外のスピーカー表示は、スピーカー設定や選択中のサラウンドモードに有効な表示が点灯します。

音声チャンネル信号表示

- **L** ：左フロントチャンネル
デジタル入力を選んで、左フロント信号が入力されたとき、点灯します。
アナログ入力を選んだときは点灯し続けます。
- **R** ：右フロントチャンネル
デジタル入力を選んで、右フロント信号が入力されたとき、点灯します。
アナログ入力を選んだときは点灯し続けます。
- **C** ：センターチャンネル
- **LS** ：左サラウンドチャンネル
- **RS** ：右サラウンドチャンネル
- **SB** ：サラウンドバックチャンネル
- **S** ：モノラルサラウンド信号が入力されたとき点灯します。
- **LFE** ：LFE(Low Frequency Effect)チャンネル

接　続　—接続が終わるまで電源プラグをコンセントに差し込まないでください。—

アンテナを接続する

AM放送用(AMループアンテナ)とFM放送用(FM簡易型アンテナ)の各アンテナを接続します。アンテナを接続しないとラジオを聞くことはできません。

AMループアンテナ(付属品)の接続

AMループアンテナ(付属品)を準備する

AMループアンテナ(付属品)を本体からできるだけ離し、左右に回して最も良く受信できる所に置きます。束ねてあった線は、よく伸ばして使ってください。また、金属製の机の上などには置かないでください。

AMループアンテナを本体に取り付ける

■付属のAMループアンテナではうまく受信できないとき

AMループアンテナを接続しているAM外部端子にケーブル(電線)を一緒に接続します。窓際や屋外のなるべく高い位置に水平に張ると効果的です。
AMループアンテナは接続したままにしてください。
⏚(アース)端子にアース線を接続すると、より雑音が軽減されます。

FM簡易型アンテナ(付属品)の接続

中央のピン部に差し込みます。

FM簡易型アンテナ (付属品)
アンテナを伸ばして、放送局の受信状態が最も良い位置にテープなどで固定します。

■付属のFM簡易型アンテナではうまく受信できないとき
■マンションなどの壁面の共聴アンテナ端子を使うとき

FM屋外アンテナや壁面の共聴アンテナ端子に接続します。
・市販の同軸ケーブルとアンテナコネクターを準備してお使いください。詳しくは、販売店にお問い合わせください。

スピーカーを接続する

■接続するときのご注意

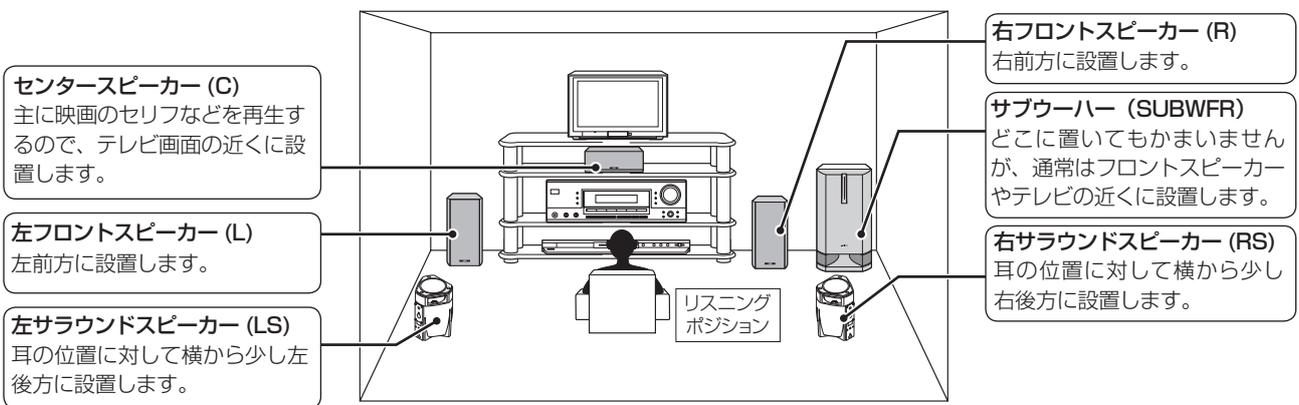
各コードまたは各プラグは確実に接続してください。不完全な接続は、雑音や音が出ないなどの原因になります。

■接続するスピーカーについて

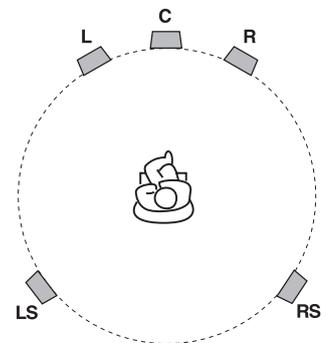
本機に接続できるスピーカーの公称インピーダンスは、6Ω〜16Ωです。
ドルビーデジタルやDTSのDVDソフトを楽しんだり、ホールやパビリオンなどの残響効果を楽しむにはスピーカーとの相性も重要になります。フロント、センター、サラウンドの各スピーカーは、特性の揃ったスピーカーを使うことが理想的です。

■スピーカーの設置について

下の設置例を参考に、実際にお聞きになりながら最適なサラウンド効果、残響効果が得られる向きや場所を探して設置してください。部屋の間取りなどで理想的な設置がむずかしいときでも、スピーカー設定を適切に行うことで音場の調節をすることができます。

理想的なスピーカー設置例(5.1ch設置のとき)

設置のポイント

- リスニングポジションを中心とした同一円周上に各スピーカーを設置するようにします。
- スピーカーからの音には指向性*がある場合があるので、スピーカーはリスニングポジションに向けて設置します。
- サブウーハーからの音は、他のスピーカーからの音と比べて、指向性は強くありません。

* **指向性とは…**
スピーカーは、一般にその正面で音が最もよく聞こえ、正面からずれていくと聞こえにくくなる性質があります。この正面からの移動角度に対する出力音圧の変化を示したものが指向性です。指向性が強いスピーカーほど、効果的に音の聞こえる範囲が狭くなります。

■スピーカーの設置・接続のあとで

スピーカーの設置・接続のあとは、**スピーカーの設定**(➡ ***26***〜***30*** ページ)や**出力レベルの調節**(➡ ***35*** ページ)をします。
本機では、このような設定や調節を、**スピーカー簡単設定**(➡ ***26*** ページ)を使って行うこともできます。

スピーカーを接続する（つづき）

■フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーの接続

フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーを**本体背面**のスピーカー端子に接続します。スピーカーコードは、左右のスピーカーで同じくらいの長さになるようにします。

スピーカーの左右と極性（⊕と⊖）を間違えないように正しく接続してください。

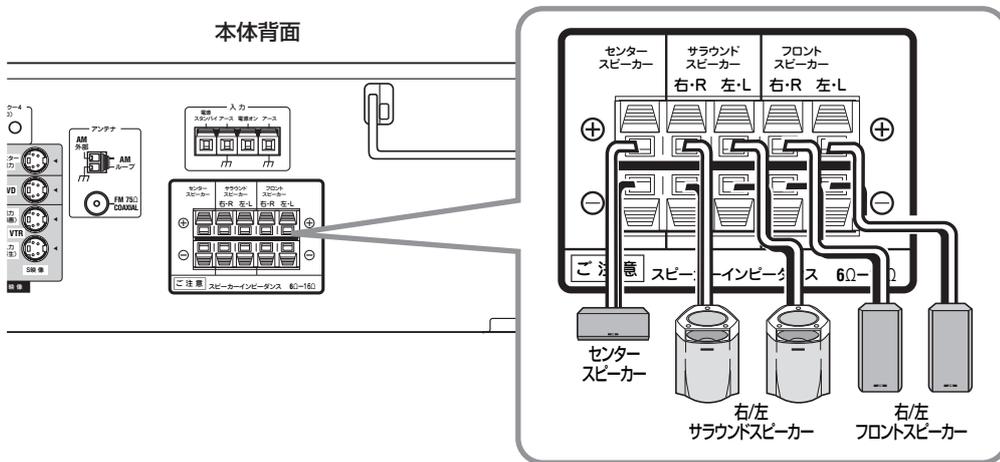
■バーチャルサラウンドバックについて

ドルビーデジタルサラウンドEX信号、DTS-ES信号など、6.1チャンネルの音声信号を再生するときは、サラウンドスピーカーを使ってサラウンドバック信号を再生できます。詳しくは「バーチャルサラウンドバックについて」（➡ ***40*** ページ）をご覧ください。

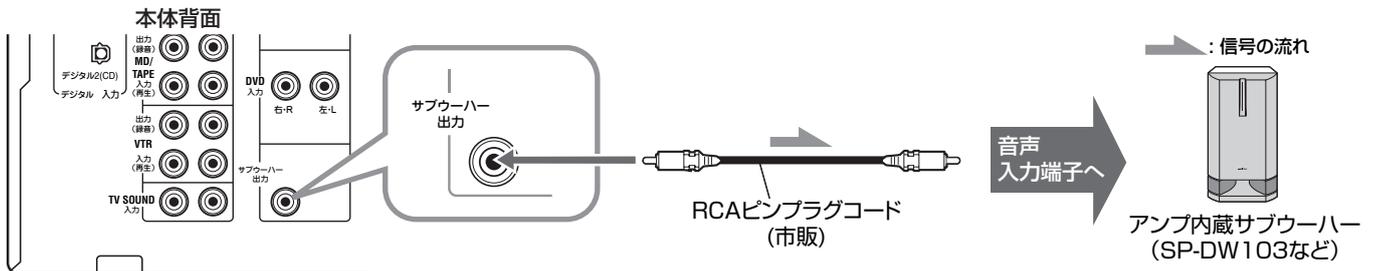
ご注意

- **一つのスピーカー端子に複数のスピーカーを接続しないでください。**事故や故障の原因となります。
- テレビの近くに設置するセンタースピーカーやフロントスピーカーなどは、防磁形スピーカーをお使いください。
  万一、テレビの画面に色ムラが生じるときは、スピーカーとテレビを離して設置してください。

お知らせ

- スピーカーコードの極性（⊕、⊖）を間違えると、音質やステレオ感がそこなわれますのでご注意ください。
- 接続したあと、コードを軽く引いてしっかり接続されているか確認してください。
- 磁気カードなどをスピーカーのすぐそばに置かないでください。データが消えるなどの原因になることがあります。

■アンプ内蔵サブウーハーの接続

本機にアンプ内蔵サブウーハーを接続すると、より迫力のある重低音をお楽しみいただけます。
特に、ドルビーデジタル5.1ch、DTS5.1chなどのマルチチャンネルソフトを再生すると、LFE(Low Frequency Effect：低域効果音)信号が再生され、映画館のような重低音が楽しめます。
アンプ内蔵サブウーハーを接続するときは、RCAピンプラグコード（市販）でサブウーハー出力端子に接続します。

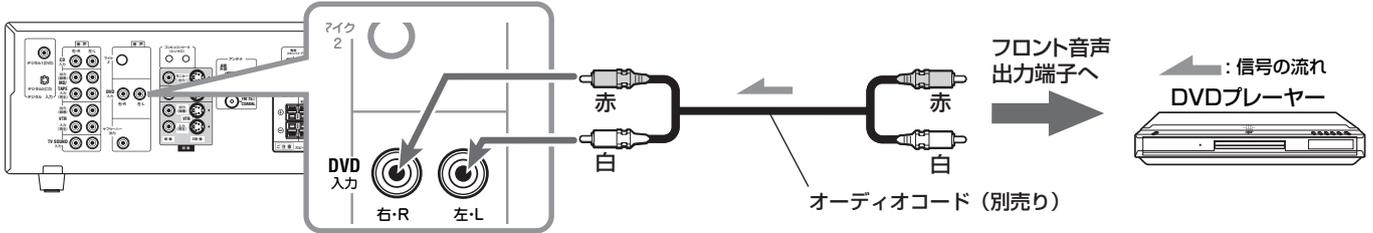
- 詳しくは、サブウーハーの取扱説明書をご覧ください。

DVDプレーヤーを接続する

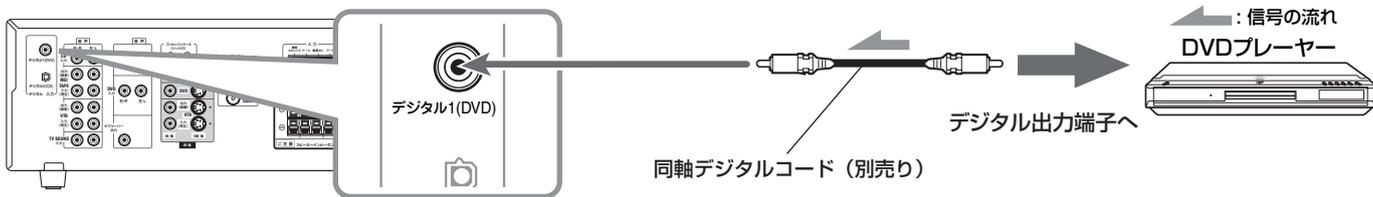
本機とDVDプレーヤーを接続します。DVDプレーヤーの取扱説明書も併せてご覧ください。
接続には、別売りのコードをお使いください(➡ 裏表紙)。

音声の接続

音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。より良い音質でお楽しみいただくには、デジタル接続をお勧めします。

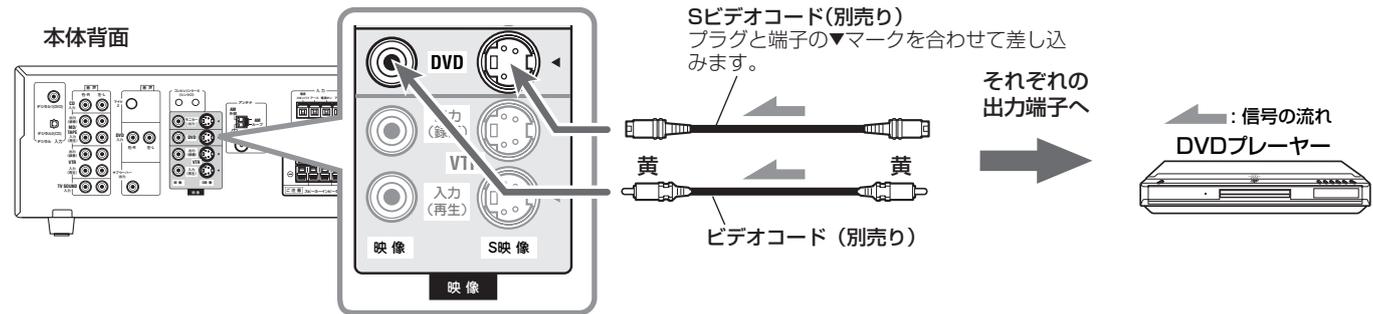
■アナログ接続

本体背面

■デジタル接続

本体背面

- DVDプレーヤーをデジタル2(CD)端子に接続するときは、デジタル2(CD)端子に割り当てられたソース(音源)を「**DVD**」に変更します(➡ ***33*** ページ)。

映像の接続

S映像端子、映像端子のいずれかを選んで接続します。
本機に入力された映像信号をテレビで再生するときは、入力機器を接続している端子と同じ種類の端子で接続してください。

本体背面

映像接続について

本機にはS映像端子と映像端子があります。以下の順でより高品位の画質をお楽しみいただけます。

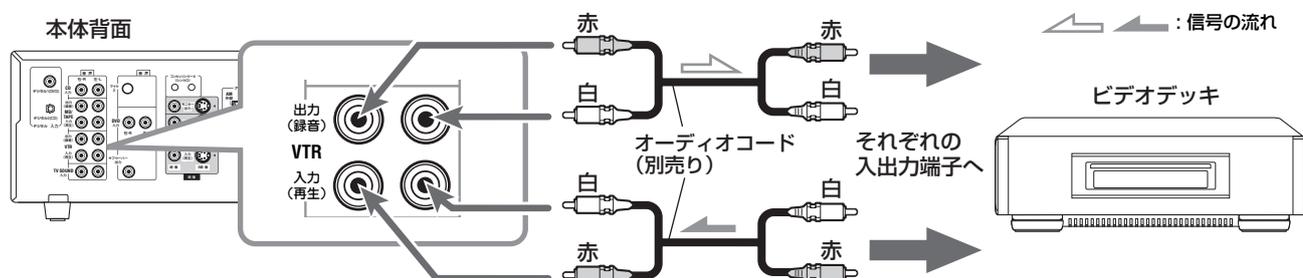
S映像端子: 映像信号を輝度信号(Y)と色信号(C)に分離した信号を扱います。

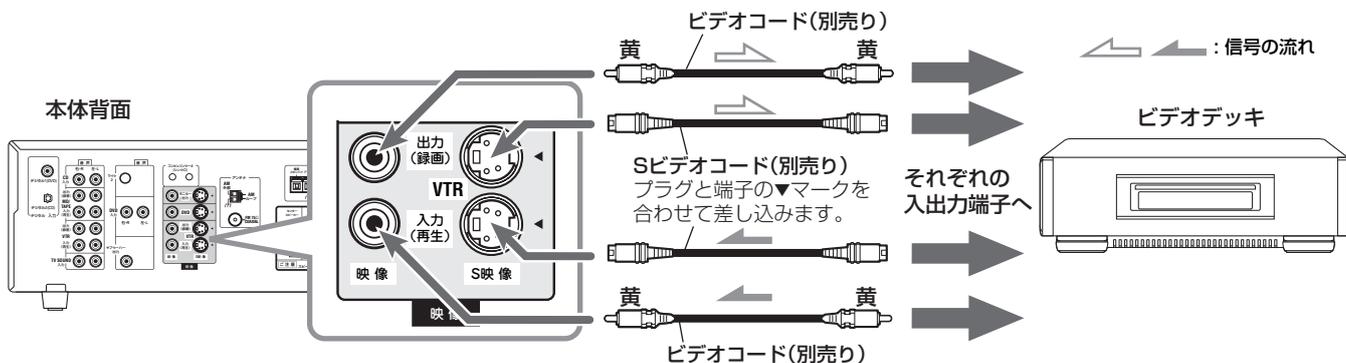
映像端子: 従来の映像信号を扱います。

ビデオデッキを接続する

本機とビデオデッキを接続します。ビデオデッキの取扱説明書も併せてご覧ください。
接続には、別売りのコードをお使いください(➡ 裏表紙)。

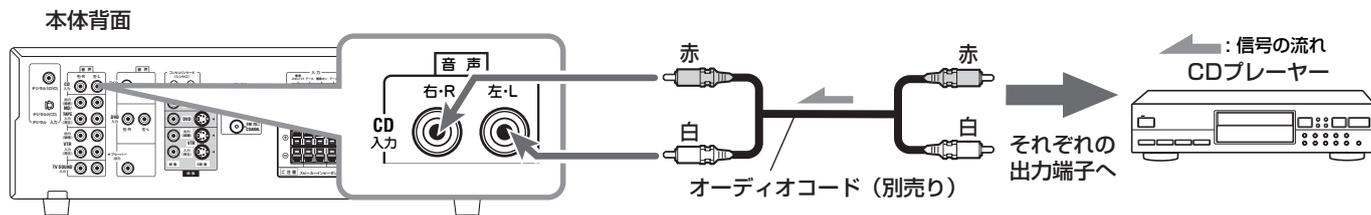
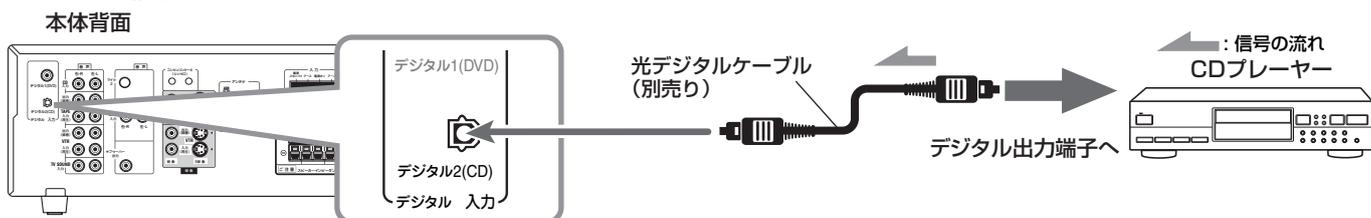
音声の接続

ビデオデッキの音声を本機に接続したスピーカーで聞く、または本機から出力された信号を録画するための接続です。

映像の接続

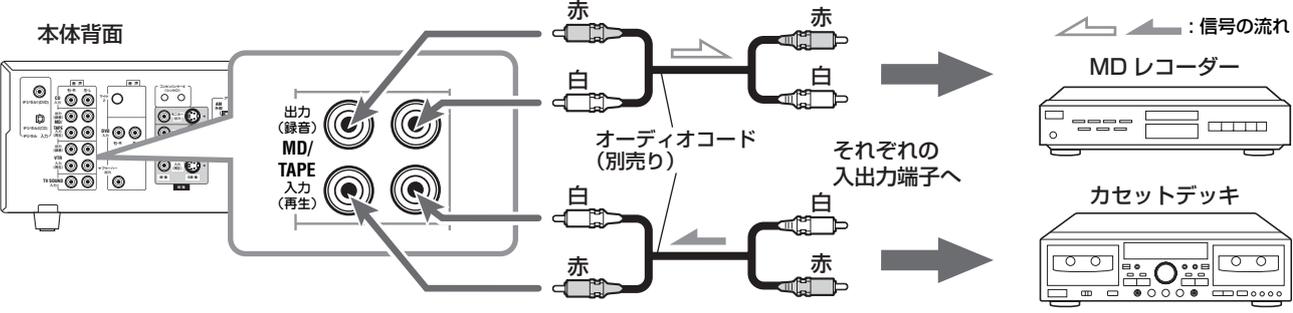
S 映像端子、映像端子のいずれかを選んで接続します。
本機に入力された映像信号をテレビで再生するときは、入力機器を接続している端子と同じ種類の端子で接続してください。

CDプレーヤーを接続する

本機とCDプレーヤーを接続します。CDプレーヤーの取扱説明書も併せてご覧ください。
接続には、別売りのコードをお使いください(➡ 裏表紙)。

音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。より良い音質でお楽しみいただくには、デジタル接続をお勧めします。

■アナログ接続

■デジタル接続

- CDプレーヤーをデジタル1(DVD)端子に接続するときは、デジタル1(DVD)端子に割り当てられたソース(音源)を「CD」に変更します(➡ ***33*** ページ)。

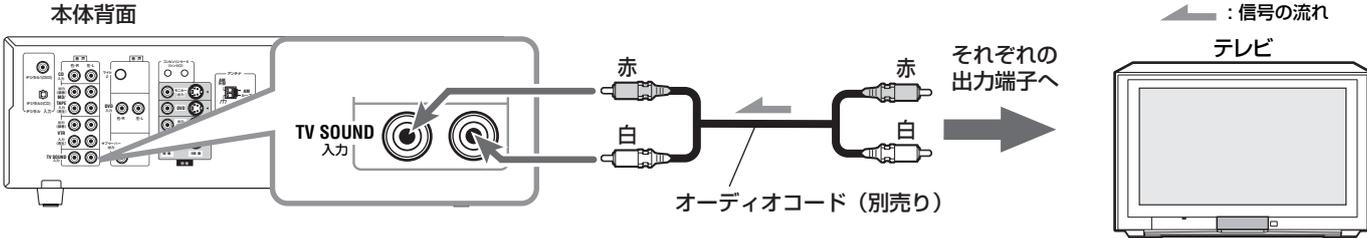
MDレコーダーまたはカセットデッキを接続する

本機とMDレコーダーまたはカセットデッキを接続します。MDレコーダーまたはカセットデッキの取扱説明書も併せてご覧ください。接続には、別売りのコードをお使いください(➡ 裏表紙)。
カセットデッキを接続するときは、ソース選択時に表示窓に表示されるソース機器名を、「MD」から「TAPE」に変更してください。(➡ ***22*** ページ)

- ビクター製のコンピュリンク対応オーディオ機器をコンピュリンク-4(シンクロ)端子を使って接続すると、一体型システムのような連係プレイが可能になります。(➡ ***42*** ページ)

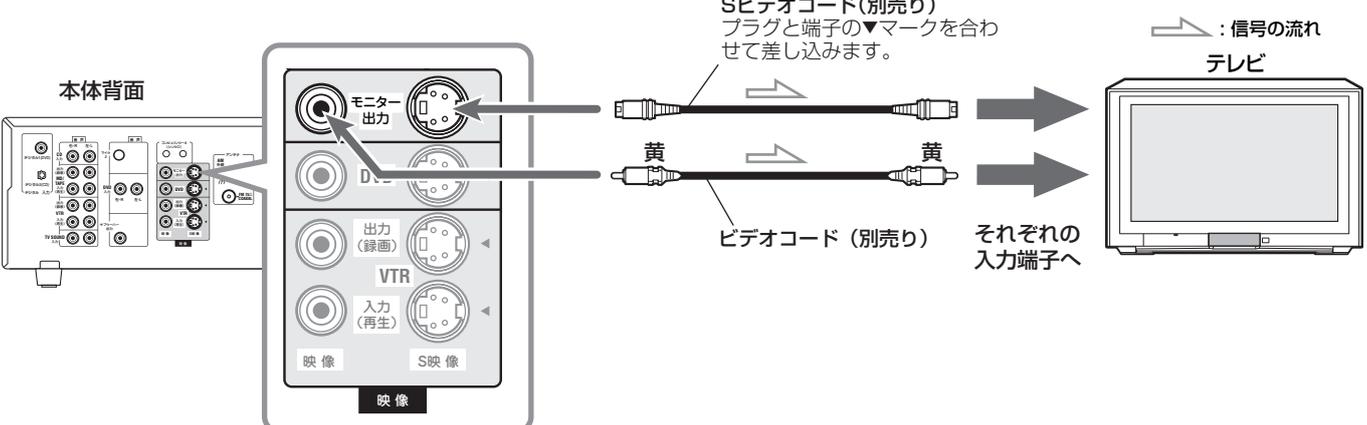
テレビを接続する

本機とテレビを接続します。テレビの取扱説明書も併せてご覧ください。
接続には、別売りのコードをお使いください(➡ 裏表紙)。

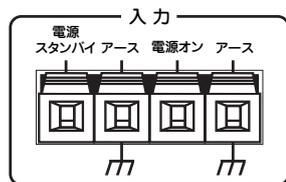
音声の接続

テレビの音声を本機に接続したスピーカーで聞くための接続です。

- デジタル音声出力端子付のテレビやデジタルテレビ放送チューナーをお使いの場合は、本機背面のデジタル入力端子に接続します。AACサラウンドなど、より良い音質でお楽しみいただけます。
  デジタル入力端子に接続するときは、接続した端子に割り当てられたソース(音源)を「TV」に変更します(➡ ***33*** ページ)。

映像の接続

本機に接続したビデオ機器(DVDプレーヤー、ビデオデッキ)の映像を、テレビで見るための接続です。S映像端子、映像端子のいずれかを選んで接続します。
本機、ビデオ機器、テレビの映像端子の種類を合わせて接続してください。

外部接続で本機の電源を「入/切」する（メイク接点）

本機は、外部から電源を「入/切」する「メイク接点」に対応しています。

本機背面のメイク接点入力端子

電源スタンバイ
外部から本機の電源を「切(待機状態)」にするときにつなぎます。

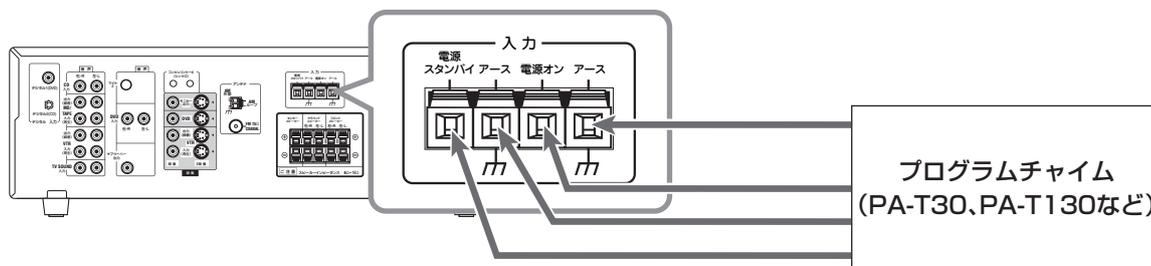
アース(電源スタンバイ側)
本端子と電源スタンバイ端子とを同時に接続しないと、電源を「切(待機状態)」にすることはできません。

電源オン
外部から本機の電源を「入」 にするときにつなぎます。

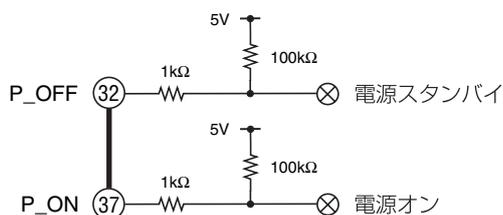
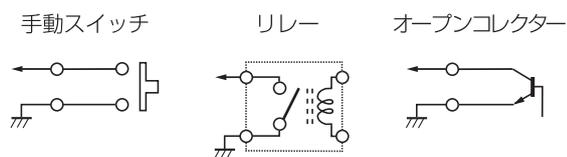
アース(電源オン側)
本端子と電源オン端子とを同時に接続しないと、電源を「入」にすることはできません。

外部タイマーで電源を時間管理するときの接続

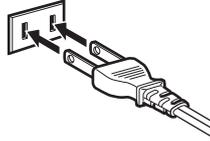
時間設定用に別売りのプログラムチャイム(PA-T30、PA-T130など)を用意します。

- プログラムチャイムは、「パルス出力モード」でプログラムします。(詳しくは、お持ちのプログラムチャイムの取扱説明書をご覧ください)
  プログラムチャイムの出力接点端子を本機背面のメイク接点入力端子につなぎます。

入力端子回路と使用例

- 入力端子には、無電圧接点(リレーや手動スイッチなど)、またはオープンコレクター接点を使用してください。
- 各入力パルス信号は、1.5秒以上のLOWレベルの信号(端子間電圧は1.5V以下、端子間抵抗は100Ω以下)を入力してください。
- 外部でのプルアップ抵抗は、接続しないでください。

マイコンの入力端子回路

入力端子に接続する接点の使用例

電源コードを接続する

接続がすべて終わってから、電源コードを家庭用コンセントに差し込んでください。

電源コードを接続すると表示窓が点灯し、電源が入ります。

お知らせ

サラウンドなどの設定は、次のような場合に取り消されることがあります。このようなときは、もう一度設定し直してください。

- 電源コードをコンセントから抜いたとき
- 停電が起こったとき

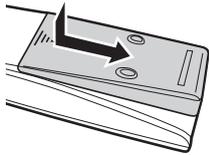
ご注意

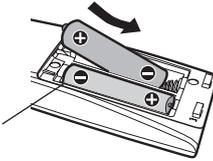
- 電源コードはテレビやビデオデッキなどから離してください。接近していると雑音が発生したり、映像が乱れたりする場合があります。
- 濡れた手で電源コードを触らないでください。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、必ずプラグの部分を持って抜いてください。

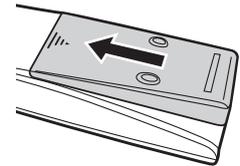
リモコンを準備する

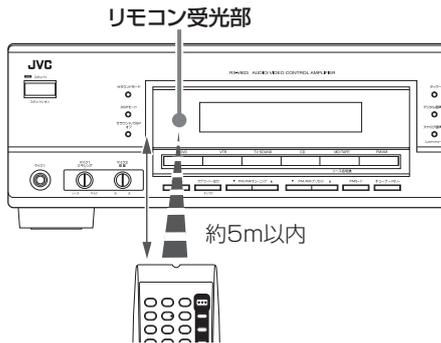
単３形の乾電池を２本入れます。**電池の極性（⊕、⊖）を間違えないように入れてください。**

1. 裏ブタを外す

矢印の方向にスライドさせます。

2. 単3形乾電池を2本入れる

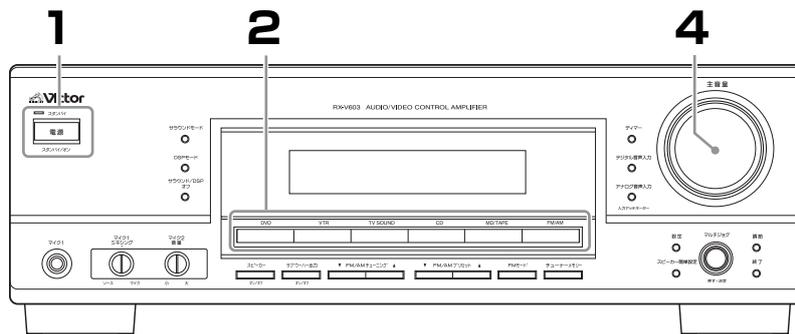
リモコン内部の表示に極性（⊕ ⊖）を合わせ、正しく入れてください。

3. 裏ブタをしめる

矢印の方向に戻します。

リモコンの操作範囲について

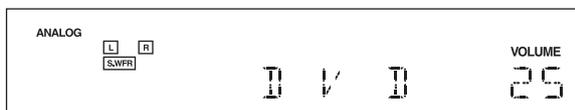
・リモコンの先端を本体前面のリモコン受光部に向けて操作します。操作可能な距離は、リモコン受光部より約5mですが、斜めから操作すると短くなります。

- リモコン受光部に直射日光などの強い光が当たっていると、動作しないことがあります。
- 操作範囲が狭くなったり、本体に近づけないと操作できなくなったときは、新しい電池と交換してください。

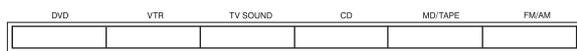
お知らせ

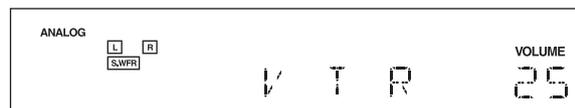
- リモコンの先端を本体のリモコン受光部に向けて操作します。斜めから使用したり、リモコン受光部との間に障害物等があると、リモコンで操作できない場合があります。
- 操作範囲が狭くなってきたり、本体に近づけないと操作できなくなってきたときは、乾電池が消耗しています。2本とも同じ種類の新しい単3形乾電池と交換してください。
- 付属の乾電池は動作確認用です。早目に新しい単3形乾電池と交換してください。
- 充電式電池などは使わないでください。
- 長い間使用しないときは、乾電池を取り出しておいてください。

ふだんの使いかた

本体から

1 電源（スタンバイ/オン）ボタンを押して本機の電源を入れる

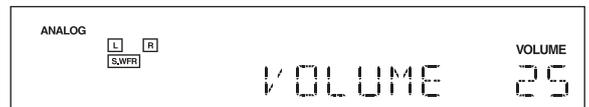
電源コードを接続すると、電源が「入」になります。
押すごとに電源が「**入**」⟷「**切**」します。
スタンバイランプが消灯します。
電源を「**切**」にする前に聞いていたソース（音源）が選ばれ、表示窓に表示されます。

例：最後に「**DVD**」を選んでいた場合

2 ソース（音源）選択ボタンを押して再生するソース（音源）を選ぶ

選んだソース（音源）名が表示されます。

例：「**VTR**」を選んだ場合

- 音声入力でデジタルを選んでいるときは、表示窓のソース（音源）名の横に「**DIGITAL**」と表示されます。

3 接続したAV機器を再生する

接続した機器を操作するときは、それぞれのAV機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

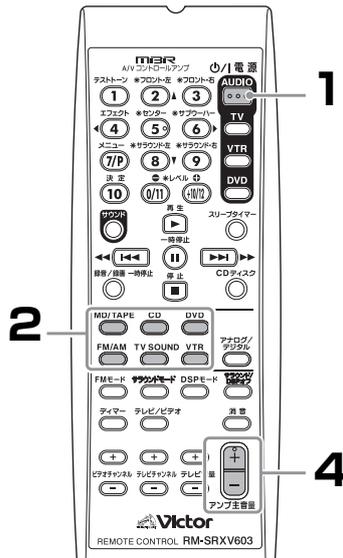
4 主音量つまみを回して音量を調節する

音量レベルは、0（最小）〜50（最大）までの範囲で調節できます。

電源を「切」にする

電源（スタンバイ/オン）ボタンを押します。
スタンバイランプが点灯します。

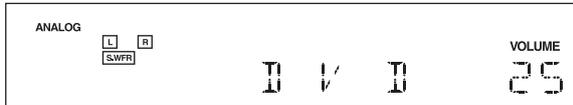
ご注意

- 次のような操作をする前には、必ず音量を最小にしてください。音量を上げたまま操作すると、突然大きな音が出て聴力障害の原因となったり、スピーカーを破損したりする場合があります。
  - 本機の電源を「**入**」⟷「**切**」するとき
  - マイクをつけるときや、マイクのプラグを抜き差しするとき

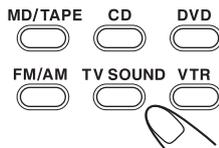
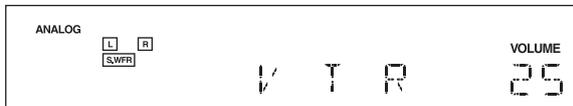
リモコンから操作するときも同様です。

リモコンから

1 ⏻/I 電源 AUDIOボタンを押して本機の電源を「入」にする

⏻/I 電源
AUDIO

押すごとに電源が「入」⟷「切」します。
本体のスタンバイランプが消灯します。
電源を「切」にする前に聞いていたソース（音源）が選ばれ、表示窓に表示されます。

例：最後に「DVD」を選んでいた場合

2 ソース（音源）選択ボタンを押して再生するソース（音源）を選ぶ

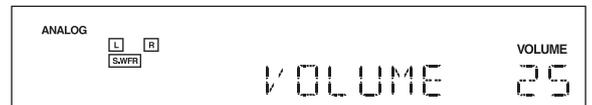
選んだソース（音源）名が表示されます。

例：「VTR」を選んだ場合

- 音声入力でデジタルを選んでいるときは、表示窓のソース（音源）名の横に「DIGITAL」と表示されます。

3 接続したAV機器を再生する

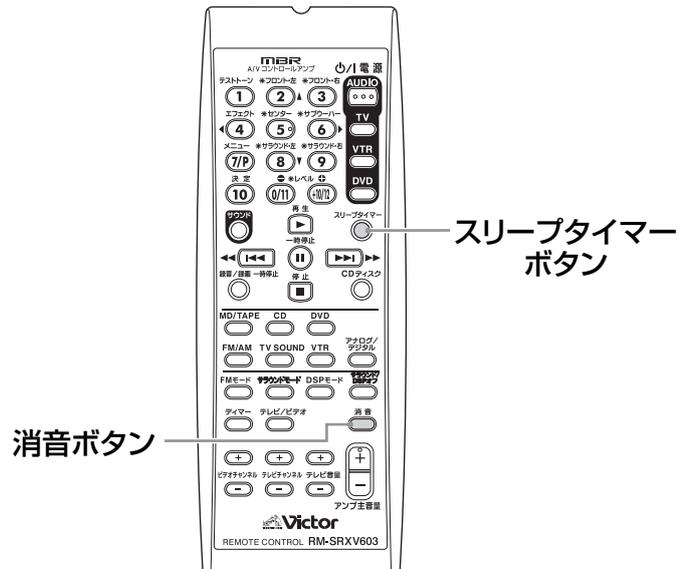
接続した機器を操作するときは、それぞれのAV機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

4 アンプ主音量（＋/－）ボタンを押して音量を調節する

音量レベルは、0（最小）～50（最大）までの範囲で調節できます。

音量を上げる
アンプ主音量
音量を下げる

電源を「切」にする

⏻/I 電源 AUDIO ボタンを押します。
本体のスタンバイランプが点灯します。

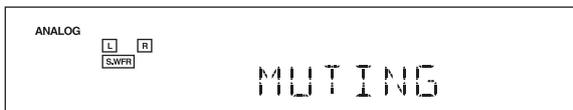
便利な機能

リモコンのみ

一時的に音を消す（消音）

電話がかかってきたときなど、音を一時的に消したいときに便利です。

消音ボタンを押す

消 音

表示窓に「MUTING」と表示されます。
スピーカーから音が出なくなります。

もとの音量に戻すには

アンプ主音量(+/−)ボタンを押すか、またはもう一度**消音**ボタンを押します。本体の**主音量**つまみを回しても、もとの音量に戻ります。

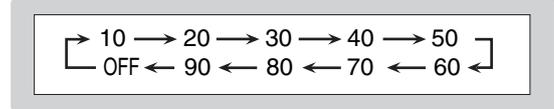
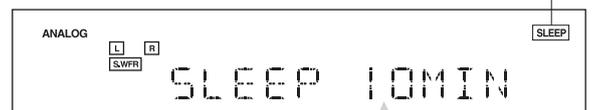
- 本体の**スピーカーオン/オフ**ボタンを押しても、スピーカーの音を消せます。表示窓に「SPEAKER OFF」と表示されます。もう一度押すと、もとの音量に戻ります。表示窓に「SPEAKER ON」と表示されます。

おやすみタイマーを使う（スリープタイマー）

おやすみタイマーを使うと、設定した時間が経過すると本機の電源が自動的に「**切**」になります。

スリープタイマーボタンを押す

- ボタンを押すごとに、設定時間（分）が次のように切り換わります。

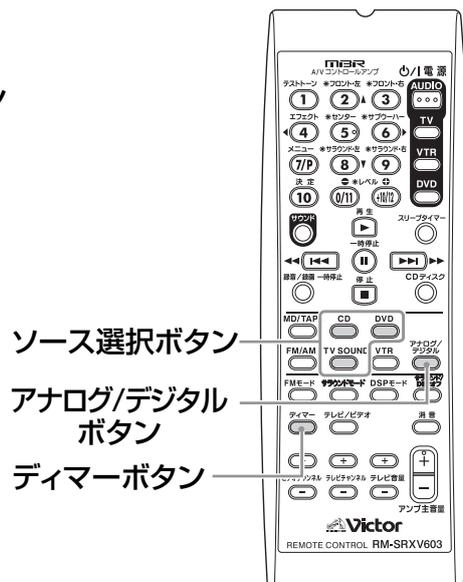
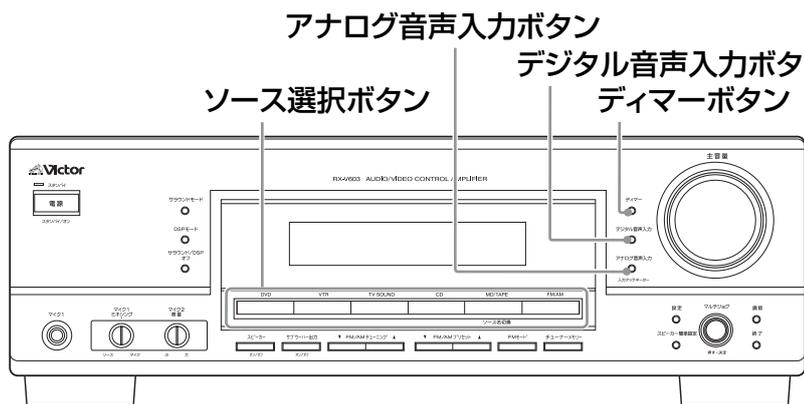
例：おやすみタイマーを10分にした場合

- おやすみタイマーの動作中は、SLEEP表示が点灯します。

設定した時間が経過すると、自動的に電源が「**切**」になります。

電源が「切」になるまでの時間を確かめたり、設定時間を変える

おやすみタイマーを設定後に**スリープタイマー**ボタンを1回押すと、電源が「**切**」になるまでの時間が表示されます。
設定時間を変更するときは、**スリープタイマー**ボタンをくり返し押して希望の時間を選びます。

おやすみタイマーを解除する

スリープタイマーボタンをくり返し押して「OFF」を表示させます。おやすみタイマーが解除されSLEEP表示は消灯します。
電源を「**切**」にしたときも、おやすみタイマーは解除されます。

本体から リモコンから

アナログ/デジタルの入力を切り換える

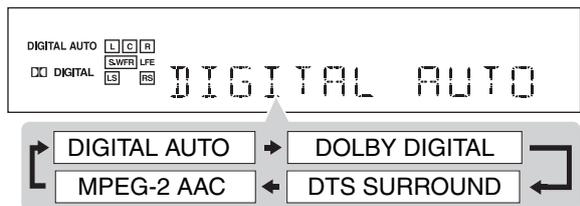
ソース機器と本機の接続に合わせて、音声入力(デジタル/アナログ)を切り換えます。マイクを使用するときは、アナログを選びます(➡ ***23*** ページ)。

デジタル音声に切り換えるとき

1 ソース(音源)選択ボタン(DVD、CD、TV SOUND)を押して再生するソース(音源)を選ぶ

2 デジタル音声入力ボタンを押す

- ボタンを押すごとに、入力が次のように切り換わります。

DIGITAL AUTO　DIGITAL AUTO

- リモコンで切り換えるときは**アナログ/デジタル**ボタンを押します。

通常は「DIGITAL AUTO」を選びます。「DIGITAL AUTO」を選びぶと、入力されたデジタル信号を自動判別し、対応するデジタル音声フォーマット表示が点灯します。

LINEAR PCM : CDなどの通常のオーディオ2チャンネル信号(リニアPCM)のとき点灯します。
DD DIGITAL : ドルビーデジタル対応信号のとき点灯します。
dts : DTSデジタルサラウンド対応信号のとき点灯します。
dts 96/24 : DTS 96/24信号のとき点灯します。
MPEG-2 AAC : MPEG-2 AAC信号のとき点灯します。

「DIGITAL AUTO」を選んでいるときに、無音状態やノイズによってデジタル信号が正しく判別できないことがあります。このような場合は、手動でフォーマットを「DOLBY DIGITAL」、「DTS SURROUND」、または「 MPRG-2 AAC」に切り換えます。

DIGITAL AUTO	デジタル信号を自動判別します。
DOLBY DIGITAL	ドルビーデジタル信号が入力されるとDD DIGITAL表示が点灯し、それ以外の信号が入力されると点滅します。
DTS SURROUND	DTS信号が入力されるとdts表示が点灯し、それ以外の信号が入力されると点滅します。 • DTS 96/24信号が入力されたときは**96/24**表示も点灯します。
MPEG-2 AAC	MPEG-2 AAC対応信号が入力されると**MPEG-2 AAC**表示が点灯し、それ以外の信号が入力されると点滅します。

- 本機の電源を「**切**」にしたり他の入力機器を選んだときは、デジタル信号フォーマットが「DIGITAL AUTO」に戻ります。

アナログ音声に切り換えるには

アナログ音声入力ボタンを押します。ANALOG表示が点灯します。
- リモコンで操作するときは、**アナログ/デジタル**ボタンをくり返し押して、「ANALOG」を選びます。

デジタル入力端子に割り当てられているソース(音源)名が接続機器名と合っていない場合は、デジタル入力に切り換えることができません。それぞれのデジタル入力端子に、接続したソース(音源)名を正しく設定してください。詳しくは「デジタル入力端子に接続したソース(音源)の設定」(➡ ***33*** ページ)をご覧ください。

表示窓の明るさを変える(ディマー)

映画ソフトなどをご覧になるときなど、表示窓を暗くしたいときに使います。

ディマーボタンを押す

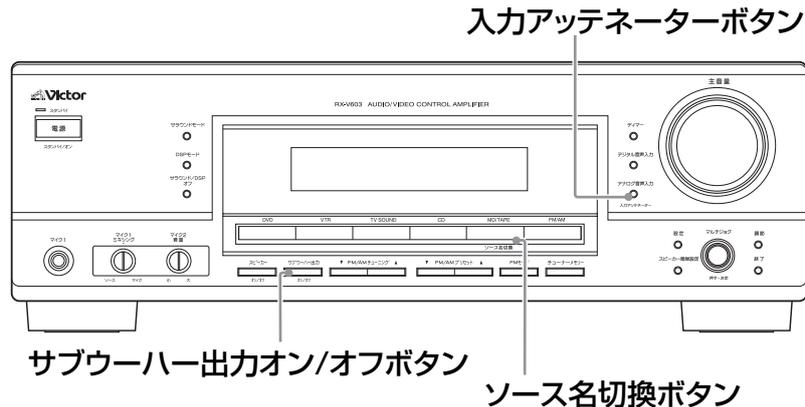
ディマー

- ボタンを押すごとに、表示窓の明るさが2段階(明るい↔暗い)に変化します。

便利な機能（つづき）

入力アッテネーターボタン

サブウーハー出力オン/オフボタン

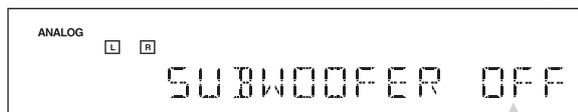
ソース名切換ボタン

本体のみ

サブウーハーの出力を入/切する

サブウーハーを接続している場合でも、低音をサブウーハーから出力しないように設定できます。

サブウーハー出力オン/オフボタンを押す

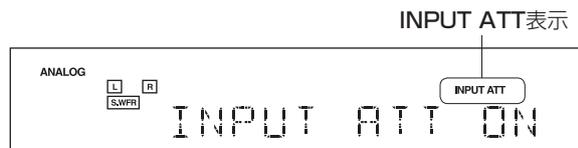
ボタンを押すごとサブウーハーからの出力が入/切します。

ON ⟷ OFF

- 「OFF」にするとS.WFR表示が消灯します。低音成分が他のスピーカーに分散して出力されます。
- フロントスピーカーサイズを「SMALL」に設定しているときは、「OFF」にできません。
- サブウーハーを「NO」に設定していると、この操作はできません。
- スピーカー設定(➡ ***28*** ページ)でサブウーハーを「NO」から「YES」に設定すると、自動的に「ON」になります。

アナログ音声入力のレベルを調節する

アナログ音声の入力信号が大きすぎると、音がひずむことがあります。このようなときはアナログ音声の入力信号のレベルを下げることができます。

入力アッテネーターボタンを押しつづける

INPUT ATT表示が点灯するまで押します。

INPUT ATT表示

INPUT NORMAL	：通常はこの状態で使用します。アナログ入力信号を調節しません。　[お買い上げ時の設定]
INPUT ATT ON	：入力信号を調節して音のひずみを軽減します。INPUT ATT表示が点灯します。

- 押すたびに切り換わります。

ソース(音源)機器の表示名を変更する

本機は、それぞれの端子に接続したソース機器を選んだとき、その機器名を表示窓に表示します。MD/TAPE端子に接続したソース(音源)機器を選ぶと「MD」が表示されます(お買い上げ時の設定)。表示名を「TAPE」に変更するときは、以下の手順で行います。

1 ソース名切換ボタンを押す

ソース名に「MD」が選ばれているときは表示窓に「MD」と表示されます。

2 ソース名切換ボタンを押しつづける

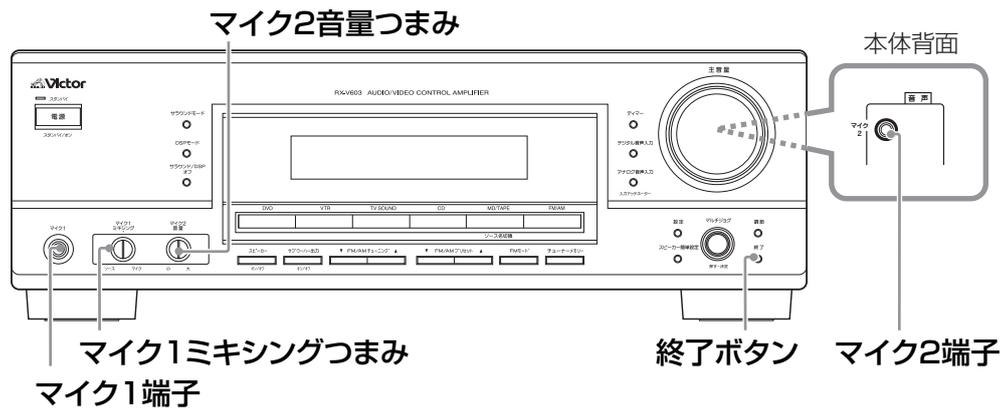
- 表示窓に「ASSIGN TAPE」が表示されるまで押します。

- 手順1〜手順2をくり返すと、「MD」に戻ります。
- 表示名を変更しなくても、MD/TAPE端子に接続したソースを再生できます。コンピュリンク·リモートコントロールシステム(➡ ***42*** ページ)を使うときは表示名を正しく設定してください。

ANALOG　L R　S.WFR　ASSIGN TAPE

マイク2音量つまみ

本体背面

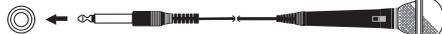
マイク1ミキシングつまみ　　終了ボタン　マイク2端子

マイク1端子

本体のみ

マイクを使ってアナウンスする

別売りのマイクをつないで、BGM(バックグラウンドミュージック)を流しながらアナウンスすることができます。マイクは2本までつなげます。

- 店内放送、校内放送などにご活用いただけます。
- BGMとしてご利用できるのは、アナログ音声入力に接続された機器のみです。
- マイクを着脱するときは、音量を最小にしておきます。

1 マイク(別売り)をマイク1端子に接続する

- 本体背面のマイク2端子にもつなげます。

2 アナログ/デジタル入力を「アナログ」に切り換える

「アナログ/デジタルの入力を切り換える」(➡ *21* ページ)。

3 ソース(音源)を再生する

主音量つまみを回して、適度な音量に調節します。

4 マイク1ミキシングつまみで、ソース(音源)とマイクの音の音量バランスを調節する

マイク2端子にマイクをつないでいるときはマイク2音量つまみを回して、マイクの音量を調節します。マイク2のみをお使いの場合、ソース(音源)の音量のみを小さくすることはできません。

マイク1ミキシング　ソース　マイク

マイク1をマイクだけの音にするには

主音量つまみを最小にしてからマイクをマイク1端子に接続し、マイク1ミキシングつまみを右(「マイク」側)に回します。次に主音量つまみを回して、マイクの音量を調節します。

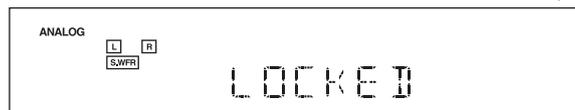
- マイク1を使用しないときは、マイク1ミキシングつまみは「ソース」側にしておいてください。
- マイク1端子にマイクが接続されていないときは、マイク1ミキシングつまみは働きません。
- マイク2の音のみにするときは、ソース(音源)を再生しないでください。

本機の操作をロックする

本機のボタンを押しても動作しないように設定できます。

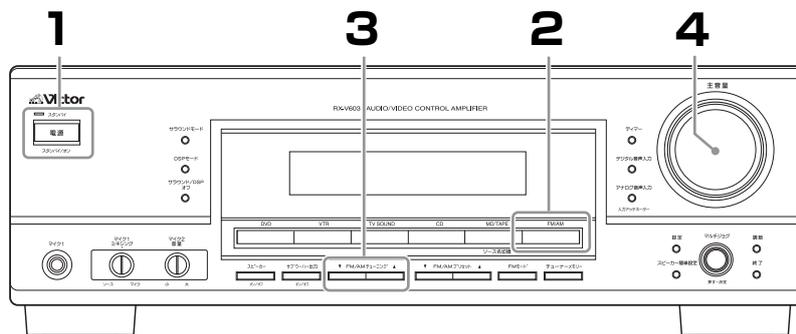
電源が「入」のときに終了ボタンを4秒以上押す

表示窓に「LOCKED」が表示されます。

終了

- ロック機能が働き、本機の操作ができなくなります。
- ロック中も以下の操作はできます。
  - ・電源の入/切
    (本体:**電源(スタンバイ/オン)**ボタン、リモコン:**⏻/I電源 AUDIO**ボタン)
  - ・主音量の調節
    (本体:**主音量**つまみ、リモコン:**アンプ主音量＋/－**ボタン)
  - ・消音機能(リモコン:**消音**ボタン)
  - ・マイク音量の調節
    (本体:**マイク1ミキシング**つまみ、**マイク2音量**つまみ)
- 解除するときは、終了ボタンをもう一度4秒以上押します。「LOCK OFF」と表示されます。

ラジオ（FM放送/AM放送）を聞く

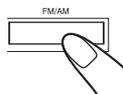
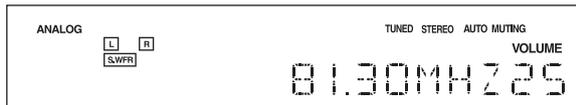
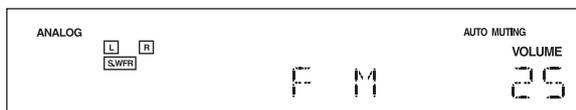
放送局を選ぶ

本機はFM/AMチューナーを内蔵しています。
• 本機はAMステレオ放送に対応していません。

本体から

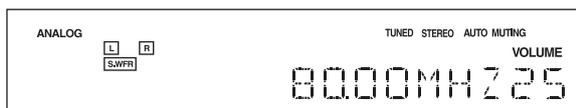
1 電源（スタンバイ/オン）ボタンを押して本機の電源を入れる

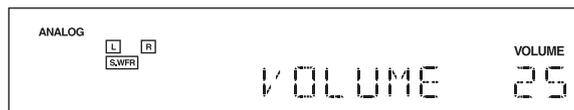
電源を「切」にする前に聞いていたソース（音源）が選ばれ、表示窓に表示されます。

2 FM/AMボタンを押してFM放送またはAM放送を選ぶ

押すごとにFM放送とAM放送が切り換わります。

例：FM放送を選んだ場合

• 前回選んだ放送局が選ばれます。

3 FM/AMチューニング▲/▼ボタンを押して聞きたい放送局を選ぶ

▲/▼ボタンをくり返し押して、聞きたい放送局を選びます。FM放送は0.05MHz(50KHz)、AM放送は9KHzずつ変わります。

• 受信する放送局を自動で選局することもできます。FM/AMチューニング▲/▼ボタンを押し続け、表示が変わり始めたら指を離します。放送局を受信すると自動的に選局されます。

4 主音量つまみを回して音量を調節する

音量レベルは、0（最小）～50（最大）までの範囲で調節できます。

リモコンで放送を選ぶときは

リモコンの**FM/AM**ボタンを押します。押すごとにFM放送とAM放送が切り換わります。

放送受信表示について

放送を受信すると表示窓に**TUNED**表示が点灯します。
FMステレオ放送を受信すると**STEREO**表示が点灯します*。

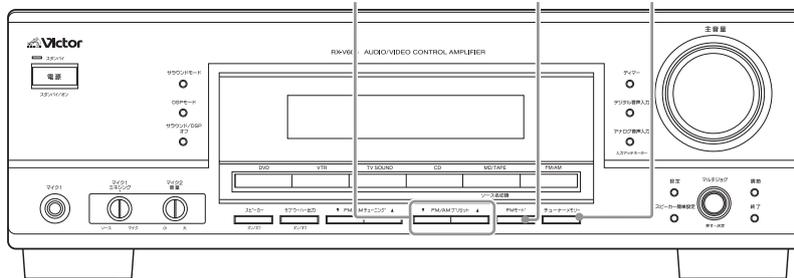
TUNED表示とSTEREO表示

*FM受信モードが**AUTO MUTING**のとき

放送局を記憶させる(プリセット選局)

一度放送局を記憶させておくと、次からは簡単に放送局を選ぶことができます。FM放送を最大30局、AM放送を最大15局まで記憶させることができます。

• 操作が途中で解除されてしまったときは、もう一度手順2からやり直してください。

3 FMモードボタン **2、4**

本体のみ

1 記憶させたい放送局を選ぶ(➡24ページ)

FM放送局を記憶させるときには、FM受信モード(右記)も同時に記憶させることができます。

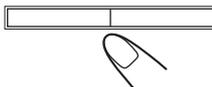
2 チューナーメモリーボタンを押す

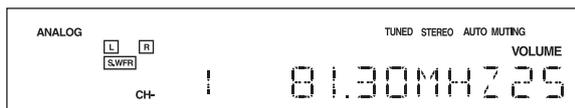
プリセット番号の表示位置「– –」が約5秒間点滅します。

3 FM/AMプリセット▲/▼ボタンを押してプリセット番号を選ぶ

プリセット番号を選ぶと、選んだ番号が点滅します。

例:プリセット番号1を選んだとき

ANALOG TUNED STEREO AUTO MUTING VOLUME L R S.WFR CH- 1 81.30MHZ25

4 プリセット番号が点滅しているあいだに、もう一度チューナーメモリーボタンを押す

プリセット番号の点滅が止まります。手順1で選んだ放送局が記憶されます。

5 手順1〜手順4をくり返して他の放送局も記憶させる

記憶させた放送局を変更するには

同じプリセット番号に新しい放送局を記憶させると、前の放送局の記憶は消えます。

プリセット番号で放送局を選ぶには

24ページの手順1〜手順2を行ない、**FM/AMプリセット▲/▼**ボタンを繰り返し押して放送局を選びます。

リモコンを使って選ぶときは、**FM/AM**ボタンを押したあと、数字ボタンを押してプリセット番号を選びます。

例)「5」を選ぶ　: (5)を押す。

「15」を選ぶ : (+10/12) ➡ (5) と押す。

「20」を選ぶ : (+10/12) ➡ (10) と押す。

「30」を選ぶ : (+10/12) ➡ (+10/12) ➡ (10) と押す。

FM受信モードを設定する

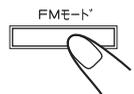
FMステレオ放送が雑音で聞きにくいときは、FM受信モードを変更することができます。

• FM受信モードはプリセットされた放送局ごとに記憶させることができます。

FM放送を受信中に、FMモードボタンを押す

ボタンを押すごとに、表示窓のFM受信モードが次のように切り換わります。

FMモード

AUTO MUTING ⟷ MODE MONO

AUTO MUTING [お買い上げ時の設定]

: 通常はこのモードを選びます。ステレオ放送のときはステレオで、モノラル放送のときはモノラルで聞こえます。このモードにすると選局中の「サー」という雑音を消すことができます。AUTO MUTING表示が点灯します。

MODE MONO

: FMステレオ放送が雑音で聞きにくいときに選びます。音声がモノラルになります。AUTO MUTING表示とSTEREO表示が消灯します。

• リモコンの**FMモード**ボタンでも設定することができます。リモコンで**FMモード**を設定するときは、リモコンの**FM/AM**ボタンを押してから操作してください。

スピーカーの設定をする

スピーカーの設定について

■スピーカーの設定項目について

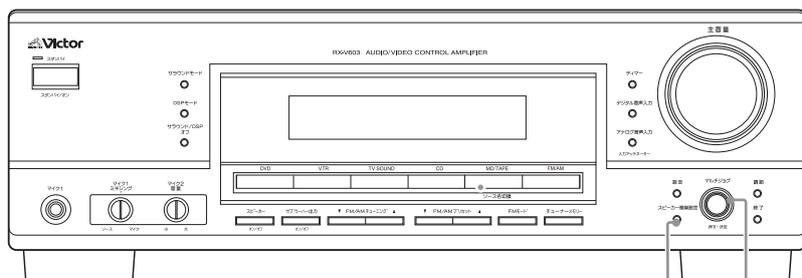
接続したスピーカーの情報（有無、サイズ、設置数など）を本機に設定することで、音声の再生に最適な音場を再現することができます。スピーカーの設定には次の4項目があります。

サブウーハーの設定	サブウーハーを使用するかどうかを設定します。
スピーカーサイズの設定	フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーについて、使用するかどうか、またはユニットのサイズを設定します。
スピーカーの距離設定	各スピーカーからリスニングポジションまでの距離の違いによって起こる、音が到達する時間差を補正します。
サブウーハーの出力設定	サブウーハーからフロントスピーカーの低音域の信号を出力するかどうかを設定します。

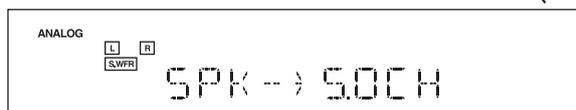
また、スピーカーの設定をするにはスピーカー簡単設定を使う方法と、手動で設定を行う方法があります。

スピーカー簡単設定をする

「サブウーハーの設定」、「スピーカーサイズの設定」および「スピーカーの距離設定」（➡ *29* ページ）の3つの基本設定を手早く行うことができます。

- スピーカー簡単設定は、操作(手順1から手順5まで)がすべて終了したとき、設定した内容が登録されます。操作を途中で止めたときは、そこまでの設定は登録されません。
- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順1からやり直してください。

本体のみ

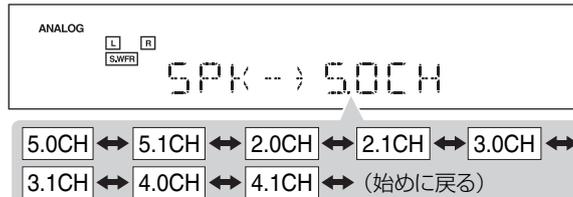
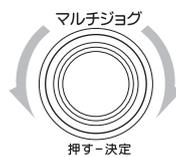
1 スピーカー簡単設定ボタンを押す

最初に設定されているスピーカーの数が表示されます。

スピーカー簡単設定

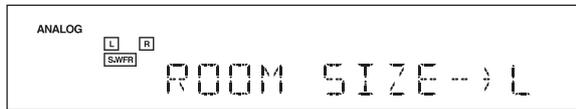
2 マルチジョグつまみを回して接続したスピーカーの数を表示させる

マルチジョグを回すと下図のように数が変わります。

- スピーカー簡単設定によるスピーカーサイズの設定は次ページの図表の通りです。

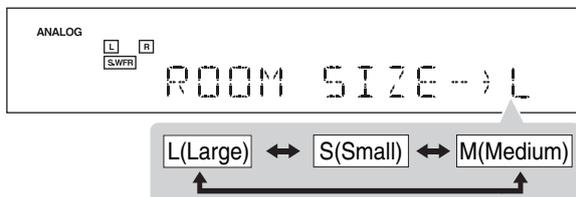
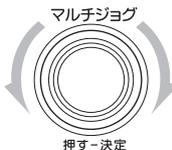
5.0CH ↔ 5.1CH ↔ 2.0CH ↔ 2.1CH ↔ 3.0CH ↔ 3.1CH ↔ 4.0CH ↔ 4.1CH ↔（始めに戻る）

3 マルチジョグつまみを押す

設定が本体に記憶されます。
設定されているリスニングルームの大きさが表示されます。

ANALOG L R S.WFR
ROOM SIZE→L

4 マルチジョグつまみを回してリスニングルームの大きさを表示させる

設定されている部屋の大きさ「L(Large)」が表示されます。

ANALOG L R S.WFR
ROOM SIZE→L

L(Large) ↔ S(Small) ↔ M(Medium)

- リスニングルームの大きさは、右図表の「スピーカー簡単設定によるスピーカーの距離設定」から最も近い大きさを割り出して設定します。
- リスニングルームの大きさを登録すると、スピーカーからリスニングポジションまでの距離が自動的に設定されます。

5 マルチジョグつまみを押す

設定が本体に記憶されます。

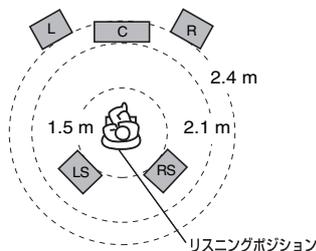
- スピーカー簡単設定では、適切なスピーカー出力レベルがすべてのソース(音源)に設定されます。それぞれのソース(音源)に対して別々にスピーカー出力レベルを設定するときは、手動でスピーカー出力レベルを設定してください。(➡ ***35***、***41***ページ)

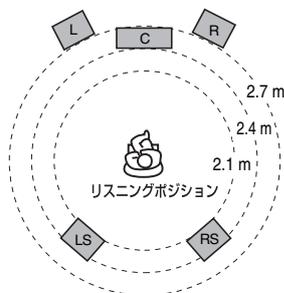
スピーカー簡単設定によるスピーカーサイズの設定

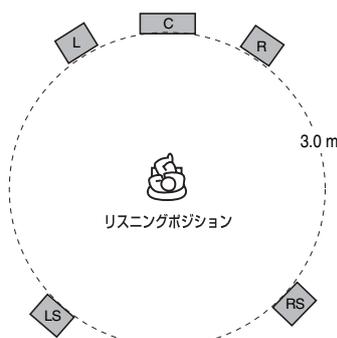
設定項目		スピーカーサイズの自動設定		
CH	サブウーハーの有無	フロントスピーカー(左右)	センタースピーカー	サラウンドスピーカー(左右)
2.0CH	NO(無し)	LARGE	NONE	NONE
2.1CH	YES(あり)	SMALL	NONE	NONE
3.0CH	NO(無し)	LARGE	SMALL	NONE
3.1CH	YES(あり)	SMALL	SMALL	NONE
4.0CH	NO(無し)	LARGE	NONE	SMALL
4.1CH	YES(あり)	SMALL	NONE	SMALL
5.0CH	NO(無し)	LARGE	SMALL	SMALL
5.1CH	YES(あり)	SMALL	SMALL	SMALL

LARGE:(大)、SMALL:(小)、NONE:(無し)

スピーカー簡単設定機能によるスピーカーの距離と、出力レベルの設定

- リスニングルームの大きさを「S(Small)」に設定したとき

フロントスピーカー(L,R)	2.4m 0dB
センタースピーカー(C)	2.1m −2dB
サラウンドスピーカー(LS,RS)	1.5m −4dB

- リスニングルームの大きさを「M(Medium)」に設定したとき

フロントスピーカー(L,R)	2.7m 0dB
センタースピーカー(C)	2.4m −2dB
サラウンドスピーカー(LS,RS)	2.1m −3dB

- リスニングルームの大きさを「L(Large)」に設定したとき

フロントスピーカー(L,R)	3.0m 0dB
センタースピーカー(C)	3.0m 0dB
サラウンドスピーカー(LS,RS)	3.0m 0dB

スピーカーの設定をする（つづき）

手動でスピーカーの設定をする

次の項目について設定します。

- **サブウーハーの設定（「SUBWOOFER」）**
- **スピーカーのサイズ（「FRNT SPEAKERS、CNTR SPEAKER、SURR SPEAKERS」）**
- **距離の単位（「DISTANCE UNIT」）**
- **スピーカーの距離（「FRONT L DIST、FRONT R DIST、CENTER DIST、SURR L DIST、SURR R DIST」）**
- **サブウーハーの出力設定（「SUBWOOFER OUT」）**

操作の手順

設定の途中でしばらく何も操作しないでいると、設定前のソース（音源）表示に戻ります。
途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

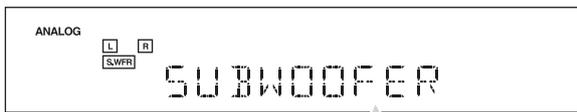
本体のみ

1 設定ボタンを押す

マルチジョグつまみが項目設定用に働くようになります。

- 最後に設定された項目が表示窓に表示されます。

2 マルチジョグつまみを回して設定する項目を表示させる

回すごとに設定項目が次のように切り換わります。
- 各設定項目についてはそれぞれの説明をご覧ください（➡ ***29***、***30*** ページ）。

ANALOG L R S.WFR
SUBWOOFER

3 マルチジョグつまみを押す

設定項目が選ばれ、設定画面が表示されます。

例：「SUBWOOFER」を選んだ場合

ANALOG L R
SUBWOOFER NO

4 マルチジョグつまみを回して設定を選ぶ

ANALOG L R S.WFR
SUBWOOFER YES

5 マルチジョグつまみを押す

設定が本体に記憶されます。

6 他の項目を設定するときには、手順 2 ～ 5 をくり返す

7 終了ボタンを押して設定を終了する

サブウーハーの設定

SUBWOOFER ↔ FRNT SPEAKERS ↔ CNTR SPEAKER ↔
SURR SPEAKERS ↔ DISTANCE UNIT ↔ FRONT L DIST ↔
FRONT R DIST ↔ CENTER DIST ↔ SURR L DIST ↔
SURR R DIST ↔ SUBWOOFER OUT

サブウーハーを使用する場合は「YES」を選択してください。

ANALOG L R S.WFR SUBWOOFER YES

YES ↔ NO

YES	：サブウーハーを使用するときに選びます。S.WFR表示が点灯します。サブウーハーの出力レベルが調節できるようになります。
NO	：サブウーハーを接続していないとき、またはサブウーハーを使用しないときに選びます。

スピーカーサイズの設定

SUBWOOFER ↔ FRNT SPEAKERS ↔ CNTR SPEAKER ↔
SURR SPEAKERS ↔ DISTANCE UNIT ↔ FRONT L DIST ↔
FRONT R DIST ↔ CENTER DIST ↔ SURR L DIST ↔

お使いのスピーカー(フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー)について、使用するかどうか、またはユニットのサイズを本機に登録します。

- はじめに、設定するスピーカーを選びます。

例：フロントスピーカーを選んだ場合

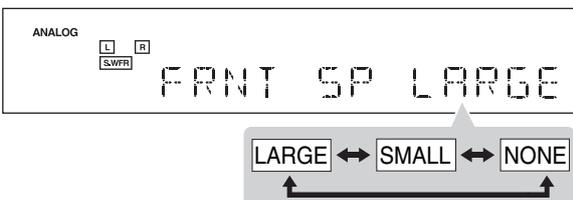
ANALOG L R S.WFR FRNT SPEAKERS

FRNT SPEAKERS	：フロントスピーカーの設定をします。
CNTR SPEAKER	：センタースピーカーの設定をします
SURR SPEAKERS	：サラウンドスピーカーの設定をします。

- 次に、各スピーカーのサイズを選びます。

マルチジョグつまみを押すと、設定画面が表示されます。

お使いのスピーカーに内蔵されているユニットの口径でサイズを選びます。

LARGE ↔ SMALL ↔ NONE

LARGE（大）	：スピーカーユニットの口径が12cm以上のときに選びます。
SMALL（小）	：スピーカーユニットの口径が12cm未満のときに選びます。
NONE（なし）	：スピーカーを接続していないときに選びます(「FRNT SPEAKERS」では選べません)。

ご注意

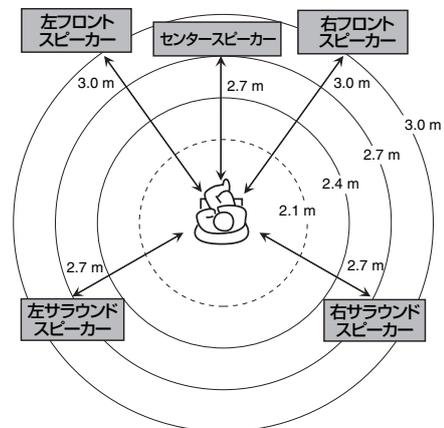
- サブウーハーを「NO」に設定しているときは、フロントスピーカーのサイズは「LARGE」しか選べません。
- フロントスピーカーのサイズを「SMALL」に設定したときは、その他のスピーカーを「LARGE」に設定することはできません。

スピーカーの距離設定

ドルビーデジタル、DTSデジタルサラウンドで効果的な音場を構成するには、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離が同じであることが理想的です。
本機ではリスニングポジションから各スピーカーまでの実際の距離を登録するだけで、どの距離も同じであるように音場を調節することができます。

- 設定できる距離の単位は、**メートル**(meter)と**フィート**(feet)から選べます。
- 設定できる距離は、「**0.3m**(1フィート)」から「**9.0m**(30フィート)」までで、単位は**0.3m**(1フィート)きざみです。
- スピーカーサイズ設定で「**NONE**」に設定されているスピーカーの距離設定は、設定項目に表示されません。

例: 下図のようにスピーカーを配置したときは、左右のフロントスピーカーを「3.0m」に、センタースピーカー、サラウンドスピーカーを「2.7m」に設定します。
表示窓は次のように表示されます。

左フロントスピーカー	:「FRONT L DIST 3.0m」
右フロントスピーカー	:「FRONT R DIST 3.0m」
センタースピーカー	:「CENTER DIST 2.7m」
左サラウンドスピーカー	:「SURR R DIST 2.7m」
右サラウンドスピーカー	:「SURR L DIST 2.7m」

スピーカーの設定をする（つづき）

手動でスピーカーの設定をする（つづき）

スピーカーの距離設定(つづき)

距離設定の単位を決める

SUBWOOFER ⟷ FRNT SPEAKERS ⟷ CNTR SPEAKER ⟷
SURR SPEAKERS ⟷ DISTANCE UNIT ⟷ FRONT L DIST ⟷
FRONT R DIST ⟷ CENTER DIST ⟷ SURR L DIST ⟷

各スピーカーの距離設定の単位を設定します。

ANALOG L R S.WFR DISTANCE UNIT

マルチジョグつまみを押すと、設定画面が表示されます。

マルチジョグ
押す－決定

METER	：表示する距離をメートル単位で表します。[お買い上げ時の設定]
FEET	：表示する距離をフィート単位で表します。

各スピーカーの距離を設定する

SUBWOOFER ⟷ FRNT SPEAKERS ⟷ CNTR SPEAKER ⟷
SURR SPEAKERS ⟷ DISTANCE UNIT ⟷ FRONT L DIST ⟷
FRONT R DIST ⟷ CENTER DIST ⟷ SURR L DIST ⟷
SURR R DIST ⟷ SUBWOOFER OUT

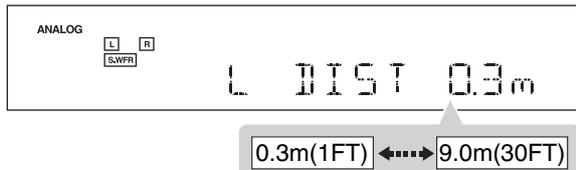
各スピーカーの距離を「**0.3m**(1フィート)」から「**9.0m**(30フィート)」の間で設定します。

[お買い上げ時の設定：3.0m(10フィート)]

例：フロントスピーカーを選んだ場合。

マルチジョグつまみを押すと、設定画面が表示されます。

マルチジョグ
押す－決定

0.3m(1FT) ⟷ 9.0m(30FT)

FRONT L DIST	：左フロントスピーカーの距離を設定します。
FRONT R DIST	：右フロントスピーカーの距離を設定します。
CENTER DIST	：センタースピーカーの距離を設定します。
SURR L DIST	：左サラウンドスピーカーの距離を設定します。
SURR R DIST	：右サラウンドスピーカーの距離を設定します。

サブウーハーの出力設定

SUBWOOFER ⟷ FRNT SPEAKERS ⟷ CNTR SPEAKER ⟷
SURR SPEAKERS ⟷ DISTANCE UNIT ⟷ FRONT L DIST ⟷
FRONT R DIST ⟷ CENTER DIST ⟷ SURR L DIST ⟷
SURR R DIST ⟷ SUBWOOFER OUT

サブウーハーは、LFE(Low Frequency Effect：低域効果音)信号と「**SMALL**」に設定された低音域の信号を再生します。さらにフロントスピーカー(MAIN)の低音域の信号を出力できます。

マルチジョグつまみを押すと、設定画面が表示されます。

LFE ⟷ LFE+MAIN

LFE	：LFE信号と、スピーカー設定で「**SMALL**」に設定されたスピーカーの低音域の信号を出力します。[お買い上げ時の設定]
LFE+MAIN	：「LFE」を選んだときの機能に加えて、LFE信号が無いときに、フロントスピーカーの低音域の信号を出力します。

サブウーハーの設定を「**NO**」にしているときは、この設定を行うことはできません(➡ ***29*** ページ)。

音声の詳細な設定をする

次の項目について設定します。
- **クロスオーバー周波数の設定(「CROSSOVER」)**
- **低音域のレベル設定(「LFE ATTENUATE」)**
- **ミッドナイトモードの設定(「MIDNIGHT MODE」)**
- **デュアルモノの設定(「DUAL MONO」)**
- **バーチャルサラウンドバックの設定(「VIRTUAL SBACK」)**
- **デジタル入力端子に接続したソース(音源)の設定(「DIGITAL IN」)**

設定する手順は、「手動でスピーカーの設定をする(➡ ***28*** ページ)」と同様です。途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

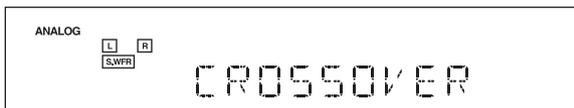
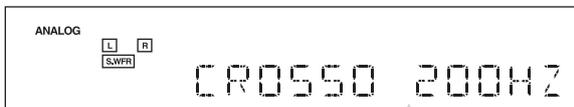
クロスオーバー周波数の設定

SUBWOOFER ↔ FRNT SPEAKERS ↔ CNTR SPEAKER ↔
SURR SPEAKERS ↔ DISTANCE UNIT ↔ FRONT L DIST ↔
FRONT R DIST ↔ CENTER DIST ↔ SURR L DIST ↔
SURR R DIST ↔ SUBWOOFER OUT ↔ **CROSSOVER** ↔
LFE ATTENUATE ↔ MIDNIGHT MODE ↔ DUAL MONO ↔
VIRTUAL SBACK ↔ DIGITAL IN ↔ (始めに戻る)

小型スピーカーでは低音を効果的に再生できない場合があります。本機では、フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーのいずれかに小型のスピーカーが使われているとき、その低音域の信号を他の大型スピーカーへ自動的に振り分けます。
この機能を正しく動作させるために、小型スピーカーのサイズに応じて、クロスオーバー周波数を設定します。
- 「スピーカーサイズの設定」(➡ ***29*** ページ)で、すべてのスピーカーを「LARGE」に設定しているときは、この機能は働きません。(**マルチジョグ**つまみを押すと「CROSS OFF」と表示されます。)

ANALOG L R S.WFR CROSSOVER

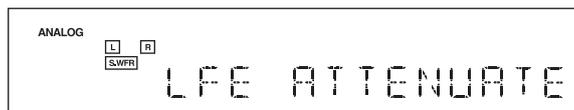
マルチジョグつまみを押すと、設定画面が表示されます。

80Hz ↔ 100Hz ↔ 120Hz ↔ 150Hz ↔ 200Hz

クロスオーバー周波数を大きく設定すると、スピーカーの口径が小さい場合でも、低音域の信号は損なわれにくくなります。下記の表を参考に設定してください。

80HZ	：スピーカーの口径が12cm以上のとき選びます。
100HZ	：スピーカーの口径が10cm程度のとき選びます。 [お買い上げ時の設定]
120HZ	：スピーカーの口径が8cm程度のとき選びます。
150HZ	：スピーカーの口径が6cm程度のとき選びます。
200HZ	：スピーカーの口径が5cm以下のとき選びます。

低音域のレベル設定

SUBWOOFER ↔ FRNT SPEAKERS ↔ CNTR SPEAKER ↔
SURR SPEAKERS ↔ DISTANCE UNIT ↔ FRONT L DIST ↔
FRONT R DIST ↔ CENTER DIST ↔ SURR L DIST ↔
SURR R DIST ↔ SUBWOOFER OUT ↔ CROSSOVER ↔
LFE ATTENUATE ↔ MIDNIGHT MODE ↔ DUAL MONO ↔
VIRTUAL SBACK ↔ DIGITAL IN ↔ (始めに戻る)

ドルビーデジタル、DTS音声を再生中に、低音がひずむとき設定します。
- この機能は「サブウーハーの設定」(➡***29*** ページ)で「YES」を選んでいて、LFE(Low Frequency Effect:低域効果音)信号が入力されたときに働きます。

マルチジョグつまみを押すと、設定画面が表示されます。

0dB ↔ –10dB

0dB	：通常はこれを選びます。 [お買い上げ時の設定]
－10dB	：低音域がひずむときに選びます。

調節・設定する

音声の詳細な設定をする（つづき）

ミッドナイトモードの設定

SUBWOOFER ⟷ FRNT SPEAKERS ⟷ CNTR SPEAKER ⟷
SURR SPEAKERS ⟷ DISTANCE UNIT ⟷ FRONT L DIST ⟷
FRONT R DIST ⟷ CENTER DIST ⟷ SURR L DIST ⟷
SURR R DIST ⟷ SUBWOOFER OUT ⟷ CROSSOVER ⟷
LFE ATTENUATE ⟷ MIDNIGHT MODE ⟷ DUAL MONO ⟷
VIRTUAL SBACK ⟷ DIGITAL IN ⟷ （始めに戻る）

ダイナミックレンジ（最大音声と最小音声の差）を2段階に調節することができます。音量が小さいときでもバランスよくサラウンドを楽しめます。

- 再生するソース（音源）によって、効果の大きさは異なります。

マルチジョグつまみを押すと、設定画面が表示されます。

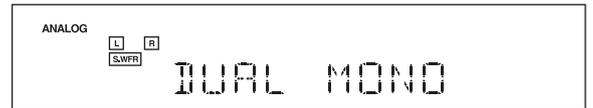
マルチジョグ
押す－決定

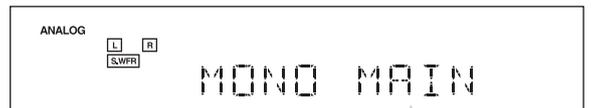
OFF ⟷ 1 ⟷ 2 ⟷ （始めに戻る）

OFF	：ダイナミックレンジはそのままで、サラウンドを楽しみたいときに選びます。　[お買い上げ時の設定]
1	：ダイナミックレンジを少し抑えたいときに選びます。
2	：ダイナミックレンジを十分に抑えたいときに選びます（夜間など周囲に迷惑をかけたくないときに選びます）。

デュアルモノの設定

SUBWOOFER ⟷ FRNT SPEAKERS ⟷ CNTR SPEAKER ⟷
SURR SPEAKERS ⟷ DISTANCE UNIT ⟷ FRONT L DIST ⟷
FRONT R DIST ⟷ CENTER DIST ⟷ SURR L DIST ⟷
SURR R DIST ⟷ SUBWOOFER OUT ⟷ CROSSOVER ⟷
LFE ATTENUATE ⟷ MIDNIGHT MODE ⟷ DUAL MONO ⟷
VIRTUAL SBACK ⟷ DIGITAL IN ⟷ （始めに戻る）

デュアルモノ（DUAL MONO）信号は、左右に異なる音声を持ったデジタル2チャンネル信号です。各チャンネルの再生方法を設定します。

マルチジョグつまみを押すと、設定画面が表示されます。

マルチジョグ
押す－決定

MAIN	：メインチャンネル（ch1）を選びます。音声チャンネル信号表示の「L」が点灯します。　[お買い上げ時の設定]
SUB	：サブチャンネル（ch2）を選びます。音声チャンネル信号表示の「R」が点灯します。
ALL	：両方のチャンネルを選びます。音声チャンネル信号表示の「L」と「R」が点灯します。

デュアルモノ音声は通常、左右フロントスピーカー、センタースピーカーから聞こえます。サラウンド設定によって、聞こえるスピーカーが違います。

デュアルモノ設定	サラウンド解除中		サラウンド再生中 センタースピーカー設定				
			LARGE/SMALL			NONE	
	L	R	L	C	R	L	R
MAIN	ch1	ch1	—	ch1	—	ch1	ch1
SUB	ch2	ch2	—	ch2	—	ch2	ch2
ALL	ch1	ch2	—	ch1+ch2	—	ch1+ch2	ch1+ch2

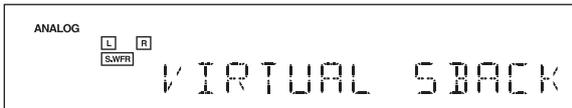
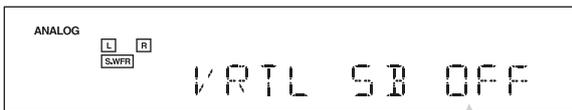
バーチャルサラウンドバックの設定

SUBWOOFER ↔ FRNT SPEAKERS ↔ CNTR SPEAKER ↔
SURR SPEAKERS ↔ DISTANCE UNIT ↔ FRONT L DIST ↔
FRONT R DIST ↔ CENTER DIST ↔ SURR L DIST ↔
SURR R DIST ↔ SUBWOOFER OUT ↔ CROSSOVER ↔
LFE ATTENUATE ↔ MIDNIGHT MODE ↔ DUAL MONO ↔
VIRTUAL SBACK ↔ DIGITAL IN ↔ (始めに戻る)

ドルビーデジタルサラウンドEX信号またはDTS-ES信号が入力されたとき、サラウンドスピーカーを使ってサラウンドバックチャンネルの音場をサラウンドバックスピーカーがあるかのように再現します。

ANALOG L R S.WFR VIRTUAL SBACK

マルチジョグつまみを押すと、設定画面が表示されます。

ANALOG L R S.WFR VRTL SB OFF

VRTL SB OFF ↔ VRTL SB ON

ON	：ドルビーデジタルサラウンドEX信号またはDTS-ES信号が入力されたとき、バーチャルサラウンドバックが働きます。表示窓にVIRTUAL SB表示が点灯します。
OFF	：バーチャルサラウンドバックを使用しません。[お買い上げ時の設定]

- スピーカーサイズ設定でサラウンドスピーカーが「NONE」のときは、バーチャルサラウンドバックは働きません。
- 設定を「ON」にしている場合でも、ソフトによってはバーチャルサラウンドバックが働かないことがあります。
- DTS-ES Matrixで記録されたDTS 96/24信号を再生するときは、バーチャルサラウンドバックを「OFF」に設定してください。「ON」に設定されていると正しく再生できません。
- DSPモードを設定しているときは、バーチャルサラウンドバックは働きません。

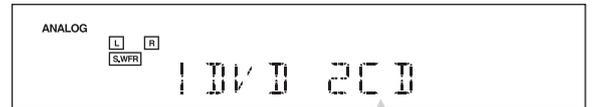
デジタル入力端子に接続したソース（音源）の設定

SUBWOOFER ↔ FRNT SPEAKERS ↔ CNTR SPEAKER ↔
SURR SPEAKERS ↔ DISTANCE UNIT ↔ FRONT L DIST ↔
FRONT R DIST ↔ CENTER DIST ↔ SURR L DIST ↔
SURR R DIST ↔ SUBWOOFER OUT ↔ CROSSOVER ↔
LFE ATTENUATE ↔ MIDNIGHT MODE ↔ DUAL MONO ↔
VIRTUAL SBACK ↔ DIGITAL IN ↔ (始めに戻る)

デジタル入力端子に接続した機器名を設定します。

ANALOG L R S.WFR DIGITAL IN

マルチジョグつまみを押すと、設定画面が表示されます。

ANALOG L R S.WFR 1DVD 2CD

1DVD 2CD ↔ 1DVD 2TV ↔ 1CD 2DVD ↔
1CD 2TV ↔ 1TV 2DVD ↔ 1TV 2CD ↔ (始めに戻る)

1：デジタル1端子に接続した機器
2：デジタル2端子に接続した機器

DVD	：DVDプレーヤー
CD	：CDプレーヤー
TV	：テレビ

ひとつの機器名を複数の端子へ設定することはできません。

音量 / 音質の調節をする

次の項目について設定します。
これらの設定は、ソース（音源）ごとに記憶されます。

- **イコライザーの調節（「DEQ」）**
- **スピーカー出力レベルの調節（「SUBWFR LEVEL」「FRONT L LEVEL」「FRONT R LEVEL」「CENTER LEVEL」「SURR L LEVEL」「SURR R LEVEL」）**
- **エフェクトの調節（「EFFECT」）**
- **センタートーンの調節（「CENTER TONE」）**
- **パノラマ機能（「PANORAMA CTRL」）**

操作の手順

設定の途中でしばらく何も操作しないでいると、設定前のソース（音源）表示に戻ります。
途中で設定操作ができなくなったときは、手順 **1** からやり直してください。

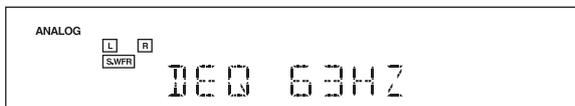
本体から

1 調節ボタンを押す

マルチジョグつまみが項目設定用に働くようになります。

2 マルチジョグつまみを回して調節する項目を表示させる

回すごとに設定項目が次のように切り換わります。

- 各設定項目についてはそれぞれの説明をご覧ください（➡ ***35***、***36*** ページ）。

DEQ 63Hz	⟷	DEQ 250Hz	⟷	DEQ 1kHz	⟷
DEQ 4kHz	⟷	DEQ 16kHz	⟷	SUBWFR LEVEL	⟷
FRONT L LEVEL	⟷	FRONT R LEVEL	⟷	CENTER LEVEL	⟷
SURR L LEVEL	⟷	SURR R LEVEL	⟷	EFFECT	⟷
CENTER TONE	⟷	PANORAMA CTRL	⟷	（始めに戻る）	

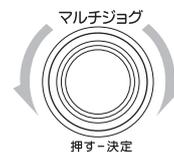
- スピーカーサイズの設定やサブウーハーの設定を「NONE」または「NO」にしているときは、「SUBWFR LEVEL」、「CENTER LEVEL」、「SURR L LEVEL」、「SURR R LEVEL」は設定できません。
- 「EFFECT」はDAPモード、MONO FILM（➡ ***40*** ページ）の動作中に選べます。
- センタースピーカーのサイズが「NONE」に設定されているときは、「CENTER LEVEL」、「CENTER TONE」は選べません。（➡ ***29*** ページ）
- 「PANORAMA CTRL」はDolby PLII MUSIC（➡ ***40*** ページ）の動作中に選べます。

3 マルチジョグつまみを押す

設定項目が選ばれ、設定画面が表示されます。

例：サブウーハーのレベル設定を選んだ場合

ANALOG
L R
S.WFR
SUBWFR LEVEL

4 マルチジョグつまみを回して設定を選ぶ

例：サブウーハーのレベル設定で「－ 3」を選んだ場合

ANALOG
L R
S.WFR
SUBWFR -3

5 マルチジョグつまみを押す

設定が本体に記憶されます。

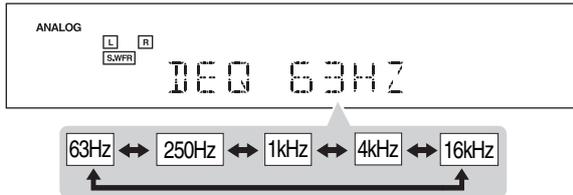
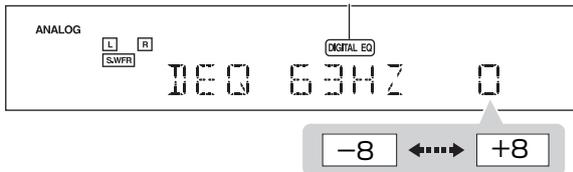
6 他の項目を設定するときには、手順 2 ～ 5 をくり返す

7 終了ボタンを押して設定を終了する

イコライザーの調節

DEQ 63Hz ↔	DEQ 250Hz ↔	DEQ 1kHz ↔
DEQ 4kHz ↔	DEQ 16kHz ↔	SUBWFR LEVEL ↔
FRONT L LEVEL ↔	FRONT R LEVEL ↔	CENTER LEVEL ↔
SURR L LEVEL ↔	SURR R LEVEL ↔	EFFECT ↔
CENTER TONE ↔	PANORAMA CTRL ↔	（始めに戻る）

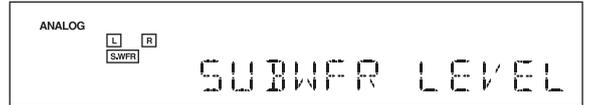
中心となる周波数帯域のレベルを調節して、よりよい音質でお楽しみいただけます。

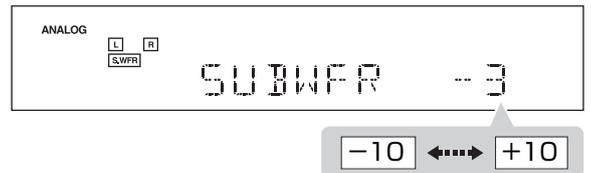
- 調節できる周波数：63Hz、250Hz、1kHz、4kHz、16kHz

マルチジョグつまみを押すと、設定画面が表示されます。

［お買い上げ時の設定：0］

- 音質を調節すると、「0」以外の値のときに表示窓に**DIGITAL EQ**表示が点灯します。
- 「−8」から「＋8」の範囲で2dB単位で調節できます。

スピーカー出力レベルの調節

DEQ 63Hz ↔	DEQ 250Hz ↔	DEQ 1kHz ↔
DEQ 4kHz ↔	DEQ 16kHz ↔	SUBWFR LEVEL ↔
FRONT L LEVEL ↔	FRONT R LEVEL ↔	CENTER LEVEL ↔
SURR L LEVEL ↔	SURR R LEVEL ↔	EFFECT ↔
CENTER TONE ↔	PANORAMA CTRL ↔	（始めに戻る）

接続した各スピーカーの出力レベルを調節します。

SUBWFR LEVEL	：サブウーハーの出力レベルを調節します。
FRONT L LEVEL	：左フロントスピーカーの出力レベルを調節します。
FRONT R LEVEL	：右フロントスピーカーの出力レベルを調節します。
CENTER LEVEL	：センタースピーカーの出力レベルを調節します。
SURR L LEVEL	：左サラウンドスピーカーの出力レベルを調節します。
SURR R LEVEL	：右サラウンドスピーカーの出力レベルを調節します。

マルチジョグつまみを押すと、設定画面が表示されます。

［お買い上げ時の設定：0（dB）］

- 「−10」から「＋10」の範囲で1dB単位で調節できます。
- 設定された内容はソース（音源）ごとに記憶されます。
- スピーカーサイズの設定で「**NONE**」にしているスピーカーは、設定できません。（➡ ***29*** ページ）
- サブウーハーの設定を「**NO**」にしているときは、「**SUBWFR LEVEL**」は設定できません。（➡ ***29*** ページ）
- リモコンを使って**テストトーン**を聞きながら設定することもできます。（➡ ***41*** ページ）

音量 / 音質の調節をする（つづき）

エフェクトの調節

SURR L LEVEL ⟷ SURR R LEVEL ⟷ **EFFECT** ⟷
CENTER TONE ⟷ PANORAMA CTRL ⟷（始めに戻る）

DAPモード(HALL1/2、LIVE CLUB、DANCE CLUB、PAVILION、THEATER1/2)、MONO FILM(➡ ***40*** ページ)が動作中に、その効果の度合い(エフェクトレベル)を調節することができます。

マルチジョグつまみを押すと、設定画面が表示されます。

[お買い上げ時の設定: 3]

- 数字が大きくなると各DAPモードとMONO FILMの効果が大きくなります。
- リモコンの**サウンド**ボタンを押してから**エフェクト**ボタンを押しても調節できます(➡ ***41*** ページ)。

センタートーンの調節

SURR L LEVEL ⟷ SURR R LEVEL ⟷ EFFECT ⟷
CENTER TONE ⟷ PANORAMA CTRL ⟷（始めに戻る）

サラウンドモード、またはDSPモードが動作中に、センタースピーカーの音質を調節することができます。

マルチジョグつまみを押すと、設定画面が表示されます。

[お買い上げ時の設定: 3]

- 数字が大きくなるとセンタースピーカーの音がよりはっきり聞こえます。
- センタースピーカーのサイズが「NONE」に設定されているときは調節できません(➡ ***29*** ページ)。

パノラマ機能

SURR L LEVEL ⟷ SURR R LEVEL ⟷ EFFECT ⟷
CENTER TONE ⟷ **PANORAMA CTRL** ⟷（始めに戻る）

Dolby PLII MUSIC（➡ ***39*** ページ）が動作中に、音声が回り込んでくるような効果を調節することができます。

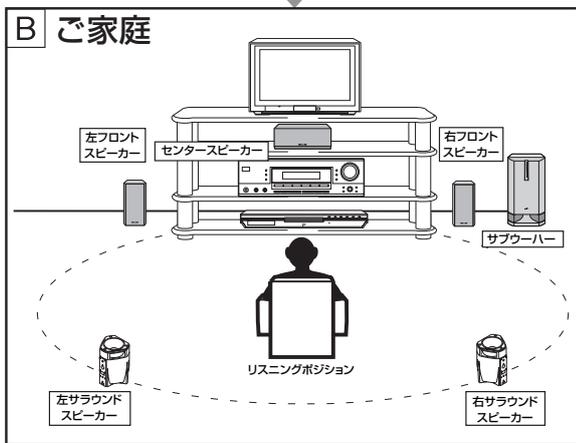
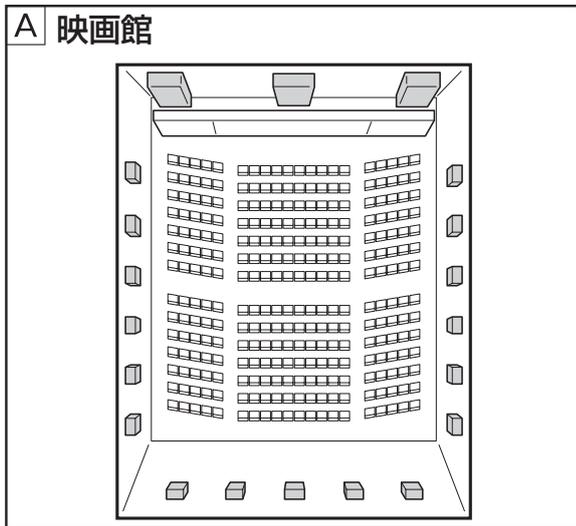
マルチジョグつまみを押すと、設定画面が表示されます。

PANORAMA OFF ⟷ PANORAMA ON

PANORAMA OFF	：通常の音声で再生します。 [お買い上げ時の設定]
PANORAMA ON	：音声が回り込んでくるような効果を強調します。

サラウンドを使う

サラウンドとは

映画館は、計算された効果音で臨場感を再現するために、壁に多くのスピーカーを配置し、あらゆる方向から音声が聞こえてくるように設計されています。(図 A)
客席を包みこむように多くのスピーカーを配置することによって、音の定位感と躍動感を飛躍的に高めています。
本機は、5 つのスピーカーとサブウーハーを使うことで、映画館そのままの臨場感をご家庭で再現することを可能にしました。(図 B)

音声信号の種類

本機では、次の入力信号に対してサラウンドを使うことができます。

● **アナログ音声信号**

本機とアナログ接続したソース(音源)機器からの信号です。

● **デジタル音声信号**

本機とデジタル接続したソース(音源)機器からの信号です。

- リニアPCM:DVD、CD などで使われている2ch 音声信号です。表示窓のLINEAR PCM表示が点灯します。
- Dolby Digital ソフト
  :表示窓のDD DIGITAL表示が点灯します。
  Dolby Digital 信号
  最も普及したマルチチャンネル信号のひとつで、1ch から5.1ch まで対応します。
  Dolby Digital Surround EX 信号
  5.1ch にサラウンドバックチャンネルを加えた6.1chの信号です。
- DTS ソフト :表示窓のdts表示が点灯します。
  DTS 信号
  DVD、CD、LD など多様なメディアで使用されているマルチチャンネル信号です。1ch から5.1ch まで対応します。Dolbyよりも圧縮率が高く、高音質が特長です。
  DTS 96/24 信号
  サンプリングレート96kHz/量子化ビット数24bit の高音質5.1ch の音声信号です。表示窓の**96/24**表示も点灯します。
  DTS-ES Matrix/Discrete 信号
  5.1ch にサラウンドバックチャンネルを加えた6.1ch の信号です。マトリクス処理をしたMatrix 信号と、マトリクス処理なしのDiscrete信号があります。
- MPEG-2 AAC : 地上デジタルテレビ放送やBSデジタルテレビ放送で使われている5.1ch までの音声信号です。表示窓のMPEG-2 AAC表示が点灯します。
- Dual Mono :左右に異なる音声を持った2ch信号です。表示窓のDUAL MONO表示が点灯します。

サラウンドモード

● **ドルビーデジタル*[1]ソフトのサラウンドモード**

- Dolby Digital :2ch以外のDolby Digital信号向けのモードです。5.1chサラウンド再生が可能です。
- Dolby Pro Logic II Movie/Dolby Pro Logic II Music/Dolby Pro Logic II Game
  :映画ソフトや音楽ソフト、ゲームを楽しむときに適した2ch音声信号向けのモードです。5.1chサラウンド再生が可能です。表示窓に DD PRO LOGIC II 表示が点灯します。

*1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

サラウンド

次ページに続く

● **DTS*2ソフトのサラウンドモード**
- DTS Surround　：2ch以外のDTSソフト向けのモードです。5.1chサラウンド再生が可能です。

● **MPEG-2 AAC*3のサラウンドモード**
- AAC　：AAC信号向けのモードです。5.1chサラウンド再生が可能です（地上デジタルやBSデジタル放送など）。

DSPモード

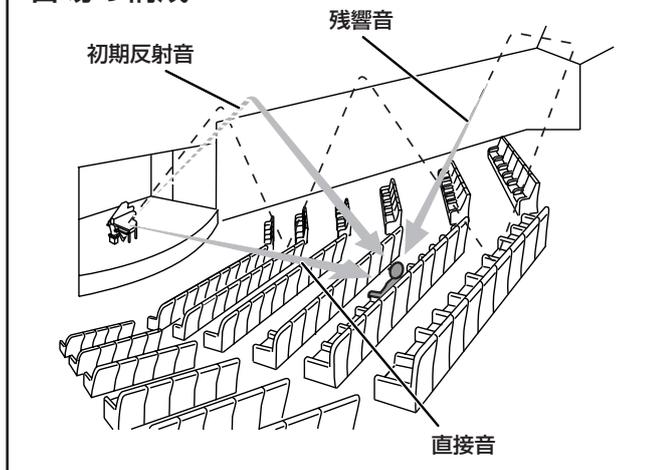
本機搭載のDSP（デジタル・シグナル・プロセッサー）により、次の各種音声信号でお楽しみいただけます。

● **DAP(デジタルアコースティックプロセッサー)モード**

コンサートホールやライブハウスなどで聞く音は、音源から直接耳に届く音（**直接音**）と天井や壁などに反射してから耳に届く音（**初期反射音**）、そして、何回も反射を繰り返してから耳に届く音（**残響音**）によって構成されています。これらの反射音/残響音は、リスナーと天井、壁の距離によって様々な遅延時間をもった音となり、コンサートなどでは、直接音とこれらの反射音/残響音によって、音場が作り出されています。

本機に搭載されているDAPモードは、これらの反射音や残響音をデジタル信号処理により創り出しコンサートホールやライブハウスなどの臨場感を再現します。表示窓に**DSP**表示が点灯します。

- DAPモードをお楽しみいただくには、フロントスピーカーの他にサラウンドスピーカーを接続、設定する必要があります。
- DAPモードが動作中は、音響効果の度合い（エフェクトレベル）が調節できます（➡ ***36*** ページ）。

音場の構成

本機では次のDAPモードをお楽しみいただけます。

- HALL1/2　：クラシック音楽用コンサートホールの音響効果を再現します。ホールの形状による音質の違いで「1」と「2」があります。
- LIVE CLUB　：小規模のコンサート会場の音響効果を再現します。
- DANCE CLUB　：天井の低いダンス会場の音響効果を再現します。
- PAVILION　：パビリオンなど広い空間の音響効果を再現します。
- THEATER1/2　：映画館の音響効果を再現します。大きさによる音質の違いで「1」と「2」があります。2ch音声で選んだときは、Dolby Pro Logic IIが動作し PRO LOGIC II 表示が点灯します。

● **Mono Film**

アナログ、Dual Mono、2chデジタル信号向けのサラウンドモードです。左右の音声を選択して聞くことができます。

● **オールチャンネルステレオ（ALL CH STEREO）**

接続･設定されたすべてのスピーカーを使って、より広い範囲でステレオ音声をお楽しみいただけます。センタースピーカーからは、左右フロントスピーカーの音声をダウンミックスして、モノラル音声で再生します。表示窓の**DSP**表示が点灯します。

- オールチャンネルステレオはアナログ2ch音声やリニアPCMデジタル音声信号を再生するときに使うと効果的です。
- オールチャンネルステレオをお楽しみいただくには、フロントスピーカーの他にサラウンドスピーカーを接続、設定する必要があります。

3D-PHONICについて

本機では、スピーカー設置数が少ないとき(フロントスピーカーは必要です)でも、設置数に合わせたサラウンドをお楽しみいただけます。本機内蔵の3D-PHONIC回路が、フロントスピーカーだけの構成でもサラウンドに近い効果をつくりだします。
- オールチャンネルステレオのときは、3D-PHONIC回路は働きません。

3D-PHONIC回路は次の場合に働きます。
- サラウンドスピーカーを使わない設定を選んだ場合
- フロントスピーカーのみを使う設定のときに、ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC信号向けのサラウンドモードを選んだ場合

3D-PHONIC回路が動作中は、表示窓の**3D-PHONIC**表示が点灯します。

お知らせ
- サラウンドをお使いになるときは、以下の項目をあらかじめ正しく設定しておいてください。
  - ･ サブウーハーの設定（➡ ***29*** ページ）
  - ･ スピーカーサイズの設定（➡ ***29*** ページ）
  - ･ スピーカーの距離設定（➡ ***29*** ページ）

*2　DTS、DTS 96/24およびDTS Digital Surround は、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

*3　米国パテントナンバー

5,848,391;	5 297 236;	5,285,498;	5,299,240;
5,291,557;	4,914,701;	5,481,614;	5,197,087;
5,451,954;	5,235,671;	5,592,584;	5,490,170;
5 400 433;	07/640,550;	5,781,888;	5,264,846;
5,222,189;	5,579,430;	08/039,478;	5,268,685;
5,357,594;	08/678,666;	08/211,547;	5,375,189;
5 752 225;	98/03037;	5,703,999;	5,581,654;
5,394,473;	97/02875;	08/557,046;	5,548,574;
5,583,962;	97/02874;	08/894,844;	5,717,821
5,274,740;	98/03036;	5,299,238;	
5,633,981;	5,227,788;	5,299,239;	

サラウンドの使いかた

入力音声信号、スピーカー設定によって選べるサラウンドモードは異なります。
適切な音場効果を得るためにスピーカーの設定を行ってください(➡ ***26***〜***30*** ページ)。

- サラウンドモードを選んだあとの音量/音質の調節については、***36***、***41***ページをご覧ください。

オートサラウンド機能

本機はマルチチャンネルのデジタル音声信号を識別すると、自動的に適切なサラウンドモードを選ぶオートサラウンド機能があります。

オートサラウンド機能で、デジタル音声入力信号と選ばれるサラウンドの関係は次のようになります。

マルチチャンネル(3チャンネル以上)の音声信号のとき

- デジタル音声信号に対応するサラウンドが選ばれます。

ドルビーサラウンドのような、マトリクス処理された2チャンネルの音声信号(Lt/Rt)のとき

- 再生中のデジタル音声信号に関わらず、サラウンドモードの「PLII MOVIE」が選ばれます。

リニアPCM、ドルビーデジタル(Lo/Ro)、MPEG-2 AACの2チャンネルの音声信号のとき

- 「SURROUND OFF」が選ばれます。

次の場合には、オートサラウンドは働きません。

・アナログ音声入力が選ばれているとき

サラウンドモードを選ぶ

1 ソース(音源)選択ボタンを押す

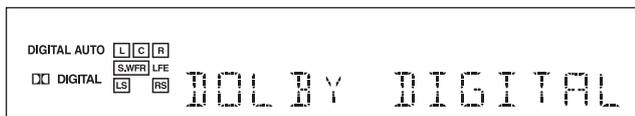
サラウンドモードを設定するソースを選びます。

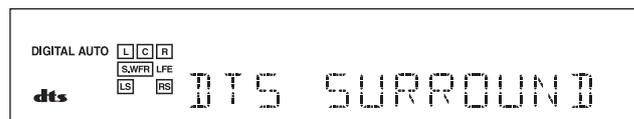
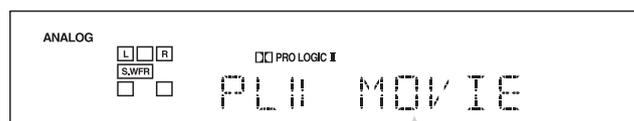
2 本体のサラウンドモードボタンを押してサラウンドモードを選ぶ

サラウンドモード

入力音声信号に対応したサラウンドが選ばれます。
詳しくは、「選択できるサラウンドモード」(➡ ***40*** ページ)をご覧ください。
リモコンの**サラウンドモード**ボタンを押しても選べます。
「DOLBY DIGITAL」、「DTS SURROUND」、または「DUAL MONO」が入力されているときには、**サラウンドモード**ボタンを押すたびに、表示窓に「AUTO SURROUND」と現在のサラウンドモードが交互に表示されます。(サラウンドの効果は変わりません。)

- Dolby Digitalマルチチャンネル信号(2チャンネル、Dual Monoを除く)が入力されたときは、自動的にDOLBY DIGITALが選ばれます。

DIGITAL AUTO L C R S.WFR LFE LS RS DIGITAL DOLBY DIGITAL

- DTSマルチチャンネル信号(2チャンネル、Dual Monoを除く)が入力されたときは、自動的にDTS SURROUNDが選ばれます。

DIGITAL AUTO L C R S.WFR LFE LS RS dts DTS SURROUND

- アナログ信号またはデジタル2チャンネル信号が入力されたときは、下記のサラウンドモードから選びます。ボタンを押すたびに切り換わります。

PLII MOVIE	：Dolby Pro Logic II Movieを選びます。
PLII MUSIC	：Dolby Pro Logic II Musicを選びます。
PLII GAME	：Dolby Pro Logic II Gameを選びます。
AUTO SURROUND	：入力信号にあわせてPLII MOVIEかSURROUND OFFが選ばれます。

- DUAL MONO信号が入力されたときは、聞きたいチャンネルを選べます(➡ ***32*** ページ)。

DUAL MONO DIGITAL AUTO L DIGITAL DUAL MONO

サラウンドモードを解除する

サラウンドモードを解除するときは**サラウンド/DSPオフ**ボタンを押します。

ドルビーデジタルサラウンドEX、DTS-ES信号が入力されたとき

バーチャルサラウンドバック機能を使って、6.1チャンネルの音場を楽しめます。バーチャルサラウンドバックの設定については、***33*** ページをご覧ください。

サラウンド

サラウンドを使う（つづき）

DSPモードを選ぶ

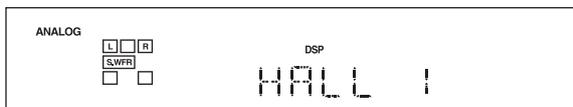
DSPモードは、**DAPモード**、**Mono Film**、**オールチャンネルステレオ**から選びます。

1 ソース(音源)選択ボタンを押す

サラウンドモードを設定するソースを選びます。

2 本体のDSPモードボタンを押してDSPモードを選ぶ

DSPモード

- ボタンを押すごとに項目が切り換わります。
- リモコンの**DSPモード**ボタンを押しても選べます。

HALL 1 ↔ HALL 2 ↔ LIVE CLUB ↔
DANCE CLUB ↔ PAVILION ↔ ALL CH STEREO ↔
THEATER 1 ↔ THEATER 2 ↔ MONO FILM ↔
(始めに戻る)

- 選択できるサラウンドモードは、右表の通りです。
- サラウンドスピーカーを「NONE」に設定しているときは、**3D-PHONIC**が働きます。**3D-PHONIC**表示が点灯します。

DSPモードを解除する

DSPモードを解除するときは**サラウンド/DSPオフ**ボタンを押します。

選択できるサラウンドモード

入力信号によって選択できるサラウンドモード、DSP モードが異なります。

入力信号 ＼ モード	サラウンドモード	DSPモード
Dolby Digital Surround EX	DOLBY DIGITAL	DAP モード (HALL 1/2 LIVE CLUB DANCE CLUB PAVILION THEATER 1/2) ALL CH STEREO
Dolby Digital (5.1チャンネル)		
DTS-ES Discrete	DTS SURROUND	
DTS-ES Matrix		
DTS (5.1チャンネル)		
DTS 96/24		
MPEG-2 AAC™	MPEG-2 AAC	
Dolby Digital (2チャンネル)	PLII MOVIE PLII MUSIC PLII GAME	DAP モード (HALL 1/2 LIVE CLUB DANCE CLUB PAVILION THEATER 1/2) MONO FILM ALL CH STEREO
DTS (2チャンネル)		
リニアPCM		
アナログ		
MPEG-2 AAC(2チャンネル)		
Dual Mono	DUAL MONO	

- スピーカーサイズの設定(➡ ***29*** ページ)でサラウンドスピーカーを「**NONE**」に設定していると、「**ALL CH STEREO**」は選べません。
- **DUAL MONO**信号が入力されると、「**MONO FILM**」が選べます。

バーチャルサラウンドバックについて

本機では、サラウンドスピーカーを使ってドルビーデジタルサラウンドEX信号やDTS-ES信号などのサラウンドバックチャンネル信号を再生できます(バーチャルサラウンドバック)。表示窓に**VIRTUAL SB**表示が点灯します。(➡ ***33*** ページ)

音量 / 音質を調節する

サラウンドモードを選んだあと、音量や音質を調節することができます。ここでは、リモコンで調節できる設定について説明します。本体で操作できる機能については、「音量/音質の調節をする」(➡ ***34*** ～***36*** ページ)をご覧ください。
設定の途中でしばらく何も操作しないでいると、設定前のソース(音源)表示に戻ります。そのときはもう一度操作をやり直してください。

スピーカー出力レベルの調節

接続した各スピーカーの出力レベルを調節します。

1 お好みのソース(音源)を再生してサラウンドを選ぶ

2 サウンドボタンを押してから、テストトーンボタンを押す

スピーカーサイズ設定で、「LARGE」または「SMALL」に設定されているスピーカーから順番に2秒間ずつテストトーンが出力されます。もう一度押すと、止まります。

- テストトーンが出力される順序
  左フロントスピーカー → センタースピーカー → 右フロントスピーカー → 右サラウンドスピーカー → 左サラウンドスピーカー →サブウーハー → 始めに戻る

3 調節するスピーカーのボタンを押す

出力を調節するスピーカーを選びます。

✱フロント･左/右
：フロントスピーカーの出力レベルを調節します。

✱センター
：センタースピーカーの出力レベルを調節します。

✱サラウンド･左/右
：左右のサラウンドスピーカーの出力レベルを調節します。

✱サブウーハー
：サブウーハーの出力レベルを調節します。

4 +/−ボタンを押して出力レベルを調節する

- +を押すと出力レベルが大きくなります。
- −を押すと出力レベルが小さくなります。
- 「−10」から「+10」の範囲で1dB単位で調節できます。
- 設定された内容はソース(音源)ごとに記憶されます。

5 テストトーンボタンを押す

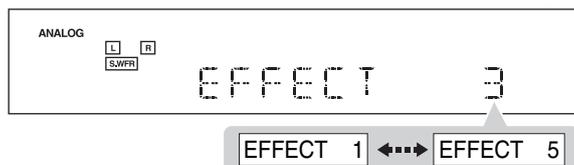
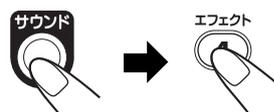
- テストトーンが停止し、もとのソース(音源)に戻ります。

エフェクトの調節

DAPモード(HALL1/2、LIVE CLUB、DANCE CLUB、PAVILION、THEATER1/2)、MONO FILM(➡ ***38*** ページ)が動作中に、その効果の度合い(エフェクトレベル)を調節することができます。

- ALL CH STEREOのときはエフェクトレベルを調節できません。

1 お好みのソース(音源)を再生してDAPモードもしくはMONO FILMを選ぶ

2 サウンドボタンを押してから、エフェクトボタンを押して調節する

エフェクトボタンを押すごとに数字が大きくなります。

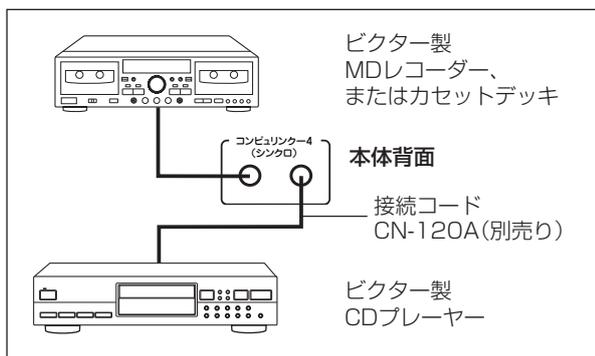
- 数字が大きくなると各DAPモードとMONO FILMの効果が大きくなります。

サラウンド

コンピュリンク・リモートコントロールシステム

接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
ビクター製のコンピュリンク対応オーディオ機器をコンピュリンク-4(シンクロ)端子を使って接続すると、一体型システムのような簡単操作が実現できます。

コンピュリンクの接続

基本的な接続をした上で、モノラルミニプラグ付きの接続コードを使って、各オーディオ機器のコンピュリンク-4(シンクロ)端子どうしを接続してください。
下の図は基本的な接続例です。すべての機器を橋渡しするように接続します。順番に決まりはありません。
機器によっては、コンピュリンク端子が1つしかない機器もあります。このようなときは、その機器が一番最後になるように接続してください。

お知らせ

- コンピュリンク端子が2つあるときには、どちらを使っても接続できます。
- MDレコーダーまたはカセットデッキをコンピュリンクで操作するときは、表示窓に表示されるソース(音源)機器の表示名を正しく設定してください。(➡ ***22*** ページ)
- 操作する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

コンピュリンク4の機能

コンピュリンク4対応製品とそれ以前のバージョンの製品を接続して使用することもできますが、そのときは最新の機能に対応した動作はできません。

- 操作の前に、接続するオーディオ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

リモコンによる一括操作

CDプレーヤーやMDレコーダー、カセットデッキなどのソース機器を本機のリモコンで操作することができます。リモコンは本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

自動電源「入/切」機能（コンピュリンク3とコンピュリンク4対応機種間のみ）

本機の電源を入れると、そのとき選ばれているソース機器(CDプレーヤーやMDレコーダーなど)の電源も自動的に入ります。
また、本機の電源を切ると、その他のオーディオ機器の電源も自動的に切れます。

自動再生(イチ押し再生)機能

ソース機器(CDプレーヤーやMDレコーダーなど)で再生を始めると、自動的に本機の電源が入り、そのソースが選ばれて、スピーカーから音が出ます。また、本機で再生するソースを選ぶと、そのソース機器の電源が自動的に入り、再生が始まります(ディスクなどが入っている場合)。

シンクロ録音機能

ソース機器の再生と同時に、録音機器で録音を自動的に始めることができます。

例: CDプレーヤーからMDレコーダーに録音する場合

1. CDプレーヤーにCDを入れる
2. MDレコーダーに録音用のMDを入れる
3. MDレコーダーのREC PAUSE(録音一時停止) を押す
4. CDプレーヤーを演奏状態にする

本機で再生するソースが自動でCDに切り換わり、MDレコーダーでシンクロ録音が始まります。

お知らせ

- シンクロ録音中は、ソース選択ボタンは働きません。
- シンクロ録音中に、接続している機器のいずれかの電源が切れると、コンピュリンク・リモートコントロールシステムは正しく動作しないことがあります。このようなときは、最初からやり直してください。

リモコンでビクター製の機器を操作する

本機のリモコンでビクター製のAV機器を操作することができます。

オーディオ機器を操作する

モノラルミニプラグ付きの接続コードを使って、本機と操作するオーディオ機器のコンピュリンク-4(シンクロ)端子どうしを接続してください。(➡ *42* ページ)。

リモコンで操作する前に・・・

- コンピュリンク·リモートコントロールシステムを使って機器を操作するときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してください。
- 本体のソース（音源）選択ボタンでソース(音源)を選んだときは、リモコンで操作できないことがあります。必ずリモコンのソース(音源)機器選択ボタンを使って選んでください。
- 接続している機器の取扱説明書もあわせてご覧ください.

CDプレーヤー

CDボタンを押したあとで、次の操作ができます。

►（再生）　：再生を始めます。
■(停止）　：再生を停止します。
ıı(一時停止）：再生を一時停止します。
　もう一度再生を始めるときは►(再生)を押します。
I◄◄　：前または選択中の曲の頭へスキップします。
►►I　：次の曲の頭へスキップします。
1〜10、+10/12：曲番号を直接選びます。

例)「5」を選ぶ:　5を押す。
「15」を選ぶ:　+10/12 ➡ 5と押す。
「20」を選ぶ:　+10/12 ➡ 10と押す。
「30」を選ぶ:　+10/12 ➡ +10/12 ➡ 10 と押す。

CDチェンジャー

CDディスクボタンを押したあとで、次の操作ができます。

►（再生）　：再生を始めます。
■(停止）　：再生を停止します。
ıı(一時停止）：再生を一時停止します。
　もう一度再生を始めるときは►(再生)を押します。
I◄◄　：前または選択中の曲の頭へスキップします。
►►I　：次の曲の頭へスキップします。
1〜6、7/P　：ディスク番号を選びます。

CDボタンを押したあとで、次の操作ができます。

1〜10、+10/12：曲番号を直接選びます。

例)「5」を選ぶ:　5を押す。
「15」を選ぶ:　+10/12 ➡ 5と押す。
「20」を選ぶ:　+10/12 ➡ 10と押す。
「30」を選ぶ:　+10/12 ➡ +10/12 ➡ 10 と押す。

MDレコーダー

MD/TAPEボタンを押したあとで、次の操作ができます。

►（再生）　：再生を始めます。
■(停止）　：再生（または録音）を停止します。
ıı(一時停止）：再生（または録音）を一時停止します。
　もう一度再生（または録音）を始めるときは►(再生)を押します。
I◄◄　：前または選択中の曲の頭へスキップします。
►►I　：次の曲の頭へスキップします。

録音/録画一時停止

：録音待機状態になります。
　録音を始めるときは►(再生)を押します。

1〜10、+10/12：曲番号を直接選びます。

例)「5」を選ぶ:　5を押す。
「15」を選ぶ:　+10/12 ➡ 5と押す。
「20」を選ぶ:　+10/12 ➡ 10と押す。
「30」を選ぶ:　+10/12 ➡ +10/12 ➡ 10 と押す。

カセットデッキ

MD/TAPEボタンを押したあとで、次の操作ができます。

►（再生）　：再生を始めます。
■(停止）　：再生（または録音）を停止します。
ıı(一時停止）：再生（または録音）を一時停止します。
　もう一度再生（または録音）を始めるときは►(再生)を押します。
◄◄　：テープを巻き戻します。
►►　：テープを早送りします。

録音/録画一時停止

：録音待機状態になります。
　録音を始めるときは►(再生)を押します。

リモコンでビクター製の機器を操作する（つづき）

ビデオ機器を操作する

リモコンで操作する前に・・・

- リモコンは、お使いになる機器のリモコン受光部に向けて操作してください。
- 日本ビクター製のビデオデッキには、「A」、「B」2種類のリモコンコードがあります。本機のリモコンを使ってお手持ちのビクター製ビデオデッキを操作する場合は、ビデオデッキのリモコンコードを「A」にしておく必要があります。

DVDプレーヤー

⏻/I電源 DVD ：DVDプレーヤーの電源を「**入**」⇔「**切**」します。
DVDボタンを押したあとで、次の操作ができます。
►（再生）　：再生を始めます。
■（停止）　：再生を停止します。
❚❚（一時停止）：再生を一時停止します。
もう一度再生を始めるときは►（再生）を押します。
|◄◄　：前または選択中のチャプターの頭へスキップします。
►►|　：次のチャプターの頭へスキップします。

DVDボタンを押したあとで**数字**ボタンを押すと、次の操作ができます。
2（▲）、**8**（▼）、**6**（►）、**4**（◄）、**10**（**決定**）、
：メニュー操作をします。
7/P（**メニュー**）：DVDソフトのメニューを表示させます。

DVDプレーヤーによってはこれらの機能がお使いになれない場合があります。その場合にはDVDプレーヤーに付属のリモコンをお使いください。

ビデオデッキ

⏻/I電源 VTR ：ビデオデッキの電源を「**入**」⇔「**切**」します。
ビデオチャンネル（＋/－）
：ビデオデッキのチャンネルを変更します。

VTRボタンを押したあとで、次の操作ができます。
►（再生）　：再生を始めます。
■（停止）　：再生(または録画･早送り･早戻し)を停止します。
❚❚（一時停止）：再生を一時停止します。
もう一度再生を始めるときは、►(再生)を押します。
◄◄　：テープを巻き戻します。
►►　：テープを早送りします。
録音/録画一時停止
：録画待機状態になります。録画を始めるには、►（再生）ボタンを押します。

テレビ

⏻/I電源 TV ：テレビの電源を「**入**」⇔「**切**」します。
テレビチャンネル（＋/－）
：テレビの受信チャンネルを変更します。
テレビ音量（＋/－） ：音量を調節します。
テレビ/ビデオ ：テレビの入力を切り換えます。

TV SOUNDボタンを押したあとで、次の操作ができます。
1～9、0/11、+10/12 ：受信チャンネルを選びます。

デジタルテレビは本機のリモコンでは操作できません。

リモコンで他メーカーの機器を操作する

本機のリモコンで他メーカーのテレビやビデオ機器を操作することができます。

- 本機のリモコンで他メーカーのテレビやビデオ機器を操作するときは、それぞれのメーカーに対応したコードを設定する必要があります。
- 接続した機器の操作については、お使いの機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

ご注意

・リモコンの乾電池を交換したときは、もう一度メーカーコードを設定してください。

テレビ

1. ⏻/I電源TVボタンを押したまま･･･
TV SOUNDボタンを押したあと、数字ボタン(1～9、0/11)を使ってメーカーコード番号(2ケタ)を入力する

各メーカーのコード番号は右記の「メーカーコード番号一覧(テレビ)」をご覧ください。

例:　お使いのテレビがシャープ製(07)のとき

と押す

2. ⏻/I電源TVボタンを離す

3. ⏻/I電源TVボタンを押して設定を確認する

テレビの電源を「**入**」⟺「**切**」できたら正しく設定されています。
正しく動かない場合は、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定します。

- デジタルテレビは、本機のリモコンでは操作できません。

テレビを操作するボタン

⏻/I 電源TV　:テレビの電源を「**入**」⟺「**切**」します。
テレビチャンネル(+/−)
:テレビの受信チャンネルを変更します。
テレビ音量(+/−) :テレビの音量を調節します。
テレビ/ビデオ　:テレビの入力を切り換えます。

TV SOUNDボタンを押したあとで、次の操作ができます。

1～9、0/11、+10/12　:テレビの受信チャンネルを選びます。

●メーカーコード番号一覧(テレビ)

メーカー名	メーカーコード番号
日本ビクター	01、02、03
アイワ	28、29
NEC	15
コルティナ	31、32、33、34
サンヨー	04、05、06
シャープ	07、08
ソニー	11、12、13
東芝	14
パイオニア	16
日立	17、18
フィリップス	30
富士通ゼネラル	09、10
フナイ	19、20、21、22
松下	23、24、25、26
三菱	27

[お買いあげ時の設定:01]

お知らせ

メーカーコードは変更される場合があり、上記のメーカー製テレビでも操作できない場合があります。

リモコンで他メーカーの機器を操作する（つづき）

ビデオデッキ

1. ⏻/I電源VTRボタンを押したまま･･･ VTRボタンを押したあと、数字ボタン（1〜9、0/11）を使ってメーカーコード番号（2ケタ）を入力する

各メーカーのコード番号は下記の「メーカーコード番号一覧（ビデオデッキ）」をご覧ください。

例： お使いのビデオデッキがシャープ製（08）のとき

と押す

2. ⏻/I電源VTRボタンを離す

3. ⏻/I電源VTRボタンを押して設定を確認する

ビデオデッキの電源を「入」⟷「切」できたら正しく設定されています。正しく動かない場合は、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定します。

ビデオデッキを操作するボタン

⏻/I電源VTR ：ビデオデッキの電源を「入」⟷「切」します。

ビデオチャンネル（＋/－）：チャンネルを変更します。

VTRボタンを押したあとで、次の操作ができます。

▶（再生）：再生を始めます。
■（停止）：再生（または録画・早送り・早戻し）を停止します。
❚❚（一時停止）：再生（または録画）を一時停止します。もう一度再生を始めるときは▶ボタンを押します。
◀◀ ：テープを巻き戻します。
▶▶ ：テープを早送りします。

●メーカーコード番号一覧（ビデオデッキ）

メーカー名	メーカーコード番号
日本ビクター	01、02、03
アイワ	30、31、32、33、34
NEC	16、17、18、19
コルティナ	36
サンヨー	04、05、06、07
シャープ	08、09
ソニー	11、12、13
東芝	14、15
パイオニア	20
日立	21、22
フィリップス	35
富士通ゼネラル	10
フナイ	23
松下	24、25、26、27
三菱	28、29

[お買いあげ時の設定：01]

お知らせ

メーカーコードは変更される場合があり、上記のメーカー製ビデオデッキでも操作できない場合があります。

DVD プレーヤー

1. ⏻/I電源DVDボタンを押したまま･･･ DVDボタンを押したあと、数字ボタン（1〜9、0/11）を使ってメーカーコード番号（2ケタ）を入力する

各メーカーのコード番号は下記の「メーカーコード番号一覧（DVDプレーヤー）」をご覧ください。

例： お使いのDVDプレーヤーが松下製（06）のとき

TV SOUND ➡ 0/11 ➡ 6 と押す

2. ⏻/I電源DVDボタンを離す

3. ⏻/I電源DVDボタンを押して設定を確認する

DVDプレーヤーの電源を「入」⟷「切」できたら正しく設定されています。正しく動かない場合は、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定します。

DVDプレーヤーを操作するボタン

⏻/I電源DVD ：DVDプレーヤーの電源を「入」⟷「切」します。

DVDボタンを押したあとで、次の操作ができます。

▶（再生）：再生を始めます。
■（停止）：再生を停止します。
❚❚（一時停止）：再生を一時停止します。もう一度再生を始めるときは▶ボタンを押します。
⏮ ：前または選択中のチャプターの頭へスキップします。
⏭ ：次のチャプターの頭へスキップします。

2（▲）、8（▼）、6（▶）、4（◀）、10（決定）：メニュー操作をします。

7/P（メニュー）：DVDソフトのメニューを表示させます。

●メーカーコード番号一覧（DVDプレーヤー）

メーカー名	メーカーコード番号
日本ビクター	01
オンキョー	10、11
ケンウッド	08
サムスン	12
ソニー	02
東芝	03
パイオニア	04
日立	14
フィリップス	15
松下	06
三菱	09
ヤマハ	13

[お買いあげ時の設定：01]

お知らせ

メーカーコードは変更される場合があり、上記のメーカー製DVDプレーヤーでも操作できない場合があります。

故障かな？と思う前に

修理に出す前に以下の点検をしてください。下記の項目に当てはまらないときは、本機以外の原因も考えられます。接続している機器なども併せてお調べください。なお、下記の項目をチェックしても直らないときは、「保証とアフターサービス」(➡ **48** ページ)をお読みの上、修理を依頼してください。

電源について

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	電源プラグがコンセントから抜けている。	電源プラグをしっかりと差し込む。
再生中に電源が「**切**」になる。	おやすみタイマーが設定されている。	おやすみタイマーを解除する。(➡ **20** ページ)
電源「**入**」時にスタンバイランプが点灯し、すぐ電源が「**切**」になる。	大音量のために本機に過負荷がかかっている。	1.再生中のソース(音源)機器を止める。 2.本機の電源を入れて音量を調節する。
	スピーカーコードがショート(短絡)したために本機に過負荷がかかっている。	電源プラグを抜き、スピーカーの接続を確認する。スピーカーコードがショート(短絡)していないときは販売店に問い合わせる。
	本機に異常な電圧がかかっている。	操作する前に電源プラグを抜いて販売店に問い合わせる。

リモコン操作について

症　状	原　因	処　置
リモコンが正しく操作できない。	リモコンが正しく設定されていない。	ソース(音源)選択ボタンまたはサウンドボタンを押す。
リモコンが働かない。	本機から離れすぎているか、本機のほうに向けていない。障害物がある。	リモコン受光部に向けて約5m以内で障害物を避けて操作する。(➡ **17** ページ)
	電池が消耗している。	電池を交換する。(➡ **17** ページ)
	電池の極性(⊕、⊖)が違う。	電池を正しく入れ直す。(➡ **17** ページ)
	リモコン受光部に直射日光が当たっている。	直射日光をさえぎる。
テレビまたはビデオ機器が操作できない。	入力したメーカーコード番号が間違っている。	正しいメーカーコード番号を入力する。(➡ **45**、**46** ページ)
	ソース(音源)選択ボタンを押していない。	操作したい機器のソース(音源)選択ボタンを押してから、操作する。

音声について

症　状	原　因	処　置
音が出ない。	スピーカーコードを正しく接続していない。	電源プラグを抜いてから正しく接続する。(➡ **12** ページ)
	オーディオコードを正しく接続していない。	電源プラグを抜いてから正しく接続する。(➡ **13**～**15** ページ)
	間違ったソース(音源)が選ばれている。	正しいソース(音源)を選ぶ。
	消音機能が働いている。	消音機能を解除する。(➡ **20** ページ)
	アナログ/デジタル音声入力が正しく選ばれていない。	正しいモードを選ぶ。(➡ **21** ページ)
マイクの音声が出ない	デジタル音声入力になっている。	アナログ音声入力に切り換える
	マイク1端子に接続している場合、マイク1ミキシングつまみが「ソース」側になっている。	マイク1ミキシングつまみを「マイク」側に回して、マイク1の音量を上げる。
	マイク2端子に接続している場合、マイク2音量つまみが「小」になっている。	マイク2音量つまみを回して、マイク2の音量を上げる。
音が出ないスピーカーがある。	スピーカーコードを正しく接続していない。	電源プラグを抜いてから正しく接続する。(➡ **12** ページ)

映像について

症　状	原　因	処　置
映像が出ない。	ビデオコードを正しく接続していない。	正しく接続する。(➡ **13**～**15** ページ)
	間違ったソース(音源)が選ばれている。	正しいソース(音源)を選ぶ。
	テレビの入力選択が間違っている。	正しい入力を選ぶ。
	ソース(音源)機器の映像接続とテレビの映像接続の端子が違う。	ソース(音源)機器とテレビの映像接続の端子を合わせる。

上記の処置をしても]正しく動作しないときは‥‥
本機はマイコンの働きで多くの動作を行なっております。万一、雷や静電気などによる動作の異常が発生したときやボタン類を押してもうまく動作しないときは、電源プラグをコンセントから抜き、しばらく待ってからつなぎ直してください。

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。「お買い上げ日·販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げの日から1年間

補修用性能部品の最低保有期間

この機器の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後８年です。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談やご不明な点は、**お買い上げの販売店**にご相談ください。

修理を依頼されるときは　出張修理

47ページの「故障かな？と思う前に」に従ってお調べください。それでもなお異常のあるときは、使用を中止し、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。このとき不具合の発生したディスクも一緒にご用意ください。

保　証　期　間　中　は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、お客様のご要望により有料で修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品　名	AUDIO/VIDEOコントロールアンプ
型　名	RX-V603
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご　住　所	付近の目印も併せてお知らせください。
お　名　前	
電話番号	(　　)　－
訪問希望日	

便利メモ	お買い上げ店名	☎ (　　)　-

修　理　料　金　の　仕　組　み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、測定機器等設備費、故障診断、修理および部品交換、調整、点検にかかる費用です。

＋

部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

＋

出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

■ この製品の製造時期は本体の背面に表示されております。

お願い

- 本機の故障または不測の事態により、録音・再生およびCD/MDの再生などにおいて、利用の機会を逸したために発生した損害等の補償については、ご容赦ください。

お客様の個人情報のお取り扱いについて

ご相談窓口におけるお客様の個人情報につきましては、日本ビクター株式会社およびビクターグループ関係会社(以下、当社)にて、下記の通り、お取り扱いいたします。

- お客様の個人情報は、お問合わせへの対応、修理およびその確認連絡に利用させていただきます。
- お客様の個人情報は、適切に管理し、当社が必要と判断する期間、保管させていただきます。
- 次の場合を除き、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。
  - ①上記利用目的のために、協力会社に業務委託する場合。当該協力会社に対しては、適切な管理と利用目的外の使用をさせない措置をとります。
  - ②法令に基づいて、司法、行政またはこれに類する機関から情報開示の要請を受けた場合。
- お客様の個人情報に関するお問合わせは、ご相談いただきましたご相談窓口にご連絡ください。

ビクターサービス窓口案内（ビクターサービスエンジニアリング株式会社）

ビクター製品のアフターサービスはお買い上げの販売店へご相談ください

ご転居等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

都道府県名	窓口名	TEL	所在地
北海道			
北海道	札幌 S.C.	(011)898-1180	札幌市厚別区厚別東五条1-2-29
	旭川 S.C.	(0166)61-3659	旭川市神居二条3-2-15
	北見 S.S.	(0157)25-8557	北見市山下町4-7-19
	釧路 S.S.	(0154)24-0797	釧路市松浦町3番3号
	帯広 S.S.	(0155)24-4493	帯広市東6条南12-11
	函館 S.S.	(0138)52-5324	函館市五稜郭町4-16函館五稜郭MFビル1F
東北			
青森	青森 S.C.	(017)723-2261	青森市桂木4-6-17
	八戸 S.S.	(0178)44-4521	八戸市諏訪2-2-36
	弘前 S.S.	(0172)28-0165	弘前市高田1-13-1
岩手	盛岡 S.C.	(019)637-0121	盛岡市津志田西2-3-20
	水沢 S.S.	(0197)22-2773	水沢市天文台通り3-12
秋田	秋田 S.C.	(018)824-3189	秋田市山王中園町4-1
	大館 S.S.	(0186)43-0980	大館市美園町5-6
	横手 S.S.	(0182)32-8873	横手市赤坂字大道向3-6
宮城	仙台 S.C.	(022)287-0151	仙台市若林区六丁の目西町7-13
山形	山形 S.C.	(023)642-0279	山形市松山3-12-18
	酒田 S.S.	(0234)26-7145	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡山 S.C.	(024)952-6331	郡山市堤1-3
	いわき S.S.	(0246)27-7991	いわき市内郷御台境町鶴巻6-1
関東・甲信越			
群馬	前橋 S.C.	(027)255-5921	前橋市大渡町1-10-1 日本ビクター（株）前橋工場第二棟1F
栃木	宇都宮 S.C.	(028)638-1639	宇都宮市東宿郷3-5-22
茨城	水戸 S.C.	(029)246-1560	水戸市元吉田町1030 日本ビクター（株）水戸工場技術棟1F
千葉	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(03)5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	千葉 S.C.	(043)202-0263	千葉市中央区中央3-9-16 三井生命千葉中央ビル1F
	柏 S.C.	(04)7175-4322	柏市豊四季512-10-67
	浦安 S.S.	(047)353-6189	浦安市当代島2-13-27
東京	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(03)5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	本郷 S.C.	(03)5684-8254	文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル1F
	練馬 S.C.	(03)3993-7520	練馬区豊玉南1-19-1
	大田 S.C.	(03)5748-3701	大田区池上二丁目8-10 プラムビル1F
	八王子 S.C.	(0426)46-6914	八王子市大和田町2-9-6
	【業務用機器専門】のご相談窓口		
	CSセンター	(03)5631-2235	墨田区八広五丁目11-1
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(03)5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	大宮 S.C.	(048)654-5241	さいたま市北区東大成町2-658-1
	熊谷 S.S.	(048)553-5105	行田市城西2-7-39ツインハイツ石山B
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(03)5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	横浜 S.C.	(045)651-0403	横浜市中区翁町1-3-1
	相模原 S.C.	(042)776-2052	相模原市古淵3-7-4
	横浜 T.C.	(046)234-4500	海老名市東柏ヶ谷6-19-26
山梨	甲府 S.S.	(055)237-4016	甲府市湯田2-11-5
新潟	新潟 S.C.	(025)242-3431	新潟市明石1-2-19
	長岡 S.S.	(0258)24-8391	長岡市下下条2-1366-1
長野	長野 S.C.	(026)221-6583	長野市川合新田962-1
	松本 S.S.	(0263)25-9165	松本市庄内2-4-21
東海			
静岡	静岡 S.C.	(054)282-4141	静岡市駿河区中田本町62-31 中田ビル1F
	沼津 S.S.	(055)922-1557	沼津市筒井町6-5
	浜松 S.S.	(053)421-3441	浜松市北島町785
愛知	名古屋 S.C.	(0568)25-3235	西春日井郡西春町九之坪鴨田121-1
	三河 S.C.	(0564)25-0321	岡崎市葵町2-23 宝ビル101号室
	豊橋 S.S.	(0532)64-0815	豊橋市多米東町1-1-1
岐阜	岐阜 S.S.	(058)274-1947	岐阜市宇佐南3-1-28
三重	三重 S.S.	(0593)52-0841	四日市市堀木2-15-2
	津 S.S.	(059)229-7780	津市大字藤方485-18

都道府県名	窓口名	TEL	所在地
北陸			
富山	富山 S.S.	(076)425-2397	富山市二口町四丁目1-3
石川	金沢 S.S.	(076)269-4821	金沢市新保本四丁目65-17
福井	福井 S.S.	(0776)53-6916	福井市西開発3-211
近畿			
滋賀	滋賀 S.S.	(077)582-5812	守山市浮気町268
京都	【出張修理専門】のご相談窓口		
	西日本コールセンター	(06)6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	京都 S.C.	(075)644-0247	京都市伏見区深草下川原町31-1
京都北部	福知山 S.S.	(0773)22-8664	福知山市厚東町145-2
奈良	【出張修理専門】のご相談窓口		
	西日本コールセンター	(06)6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	奈良 S.S.	(0742)35-0935	奈良市大宮町6-3-10藤本ビル1F
大阪	【出張修理専門】のご相談窓口		
	西日本コールセンター	(06)6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	堺 S.C.	(072)254-2881	堺市百舌鳥梅町3丁目21-2 伊助ハイツ
	【業務用機器専門】のご相談窓口		
	メンテナンスセンター	(06)6304-6715	大阪市淀川区田川2-4-28
和歌山	和歌山 S.S.	(073)472-6799	和歌山市太田430-8
	田辺 S.S	(0739)22-9976	田辺市湊1581-12
兵庫中東部	【出張修理専門】のご相談窓口		
	西日本コールセンター	(06)6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	神戸 S.C.	(078)252-0562	神戸市中央区磯上通3-2-16
兵庫西部	姫路 S.S.	(0792)34-3833	姫路市中地南町11-1
中国			
岡山	岡山 S.C.	(086)243-1566	岡山市西古松西町8-23
広島	広島 S.C.	(082)243-9839	広島市中区光南3-9-17
	福山 S.S.	(084)931-6984	福山市南蔵王町3-5-15
山口	山口 S.C.	(083)973-3708	山口市小郡花園町5-28
	徳山 S.S.	(0834)27-1331	周南市野上町2-35
島根	松江 S.C.	(0852)31-8900	松江市学園1-16-39
鳥取	鳥取 S.S.	(0857)23-2151	鳥取市千代水1丁目22-1
四国			
香川	高松 S.C.	(087)866-1200	高松市田村町205-1
徳島	徳島 S.S.	(088)622-7387	徳島市沖浜2-37
高知	高知 S.S.	(088)882-0546	高知市高須新町4-1-43
愛媛	松山 S.C.	(089)923-0372	松山市中央1-4-12
	宇和島 S.S.	(0895)20-1018	宇和島市坂下津甲407-40
九州・沖縄			
福岡佐賀	福岡 S.C.	(092)431-1261	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米 S.S.	(0942)39-3495	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州 S.C.	(093)921-3981	北九州市小倉北区片野2-15-12
長崎	長崎 S.C.	(095)862-5522	長崎市城山町9-13
	佐世保 S.S.	(0956)33-5568	佐世保市木風町1467-2
大分	大分 S.C.	(097)543-1422	大分市西大道3-1-1
熊本	熊本 S.C.	(096)353-4536	熊本市近見町8-1-10
宮崎	宮崎 S.S.	(0985)24-5401	宮崎市霧島町3-59
	延岡 S.S.	(0982)35-7077	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島 S.C.	(099)282-8818	鹿児島市田上七丁目9-8
沖縄	沖縄 S.C.	(098)898-3631	宜野湾市真志喜1-13-16

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。　0106

●略号について　S.C.はサービスセンターの略称です。
S.S.はサービスステーションの略称です。
T.C.はテクニカルセンターの略称です。

主な仕様

・本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

アンプ部

項目		内容		値
実用最大出力	フロント	100W (6Ω1kHz THD10%)		
	センター	100W (6Ω1kHz THD10%)		
	サラウンド	100W (6Ω1kHz THD10%)		
音声入力端子				入力感度 / インピーダンス
	アナログ入力	CD、MD/TAPE、VTR、TV SOUND、DVD	:	220mV/47kΩ
		マイク1、マイク2	:	1.5mV/600Ω〜10kΩ
	デジタル入力	同軸　デジタル1(DVD)	:	0.5V(p-p)/75Ω
		光　　デジタル2(CD)	:	−21dBm 〜 −15dBm
		(サンプリング周波数　32kHz、44.1kHz、48kHzに対応)		
音声出力端子				
	アナログ出力	MD/TAPE、VTR	:	220mV
		サブウーハー	:	1.0V
S/N比(音声)		CD、MD/TAPE、VTR、TV SOUND、DVD	:	70dB(JEITA)
イコライザー(5バンド)		63Hz、250Hz、1kHz、4kHz、16kHz	:	±8dB(2dBステップ)
その他の端子		コンピュリンク-4(シンクロ)(×2)		
		メイク接点(×2)		
周波数特性		CD、MD/TAPE、VTR、TV SOUND、DVD	:	20Hz〜20kHz (±1dB)
映像入力端子				入力感度 / インピーダンス
	映像(コンポジット)	DVD、VTR	:	1.0V(p-p)/75Ω、同期負
	S映像	DVD、VTR		
		Y入力	:	1.0V(p-p)/75Ω、同期負
		C入力	:	0.286 V(p-p)/75Ω
映像出力端子				出力レベル/インピーダンス
	映像(コンポジット)	VTR、モニター	:	1.0V(p-p)/75Ω、同期負
	S映像	VTR、モニター		
		Y出力	:	1.0V(p-p)/75Ω、同期負
		C出力	:	0.286V(p-p)/75Ω
S/N比(映像)			:	45dB

チューナー部

項目		値
FM受信周波数	:	76.00MHz〜108.00MHz
AM受信周波数	:	531kHz〜1,629kHz

その他

項目	内容
スリープタイマー	10、20、30、40、50、60、70、80、90分
電　源	AC 100V、50Hz/60Hz共用
消費電力	電源「入」時　190W
	電源「切(待機)」時　0.8W
最大外形寸法(幅×高さ×奥行)	435mm×146.5mm×369.5mm
質　量	約7.5kg

- JEITAは電子情報技術産業協会規格に定められた測定方法による数値です。
- 付属品については**2** ページをご覧ください。

用語索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

アルファベット

別売りのオプション品

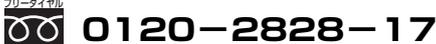
- オーディオコード：CN-510E（ピンプラグ×2〜ピンプラグ×2）（1m）
  ：CN-168G（ピンプラグ×2〜ピンプラグ×4）（1.5m）
- ビデオコード：VX-110E（1m）
- Sビデオコード：VC-S110E(1m)
- 同軸デジタルコード：CN-D110E(1m)
- 光デジタルケーブル：XN-110SA(1m)
- 接続コード：CN-120A(1.5m)

別売りのオプション品は、お買い上げの販売店でお求めください。
(品番は変更されることがあります)

ご相談や修理は

ビクター製品についてのご相談や修理のご依頼は、お買い上げの販売店にご相談ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記の相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談 **ビクターサービスエンジニアリング株式会社**	お買い物相談や製品についての全般的なご相談 **お客様ご相談センター**
49ページの「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。	フリーダイヤル 0120−2828−17 携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は 電話 (045) 450−8950 FAX (045) 450−2275 〒221-8528　横浜市神奈川区守屋町3-12

ビクターホームページ　http://www.victor.co.jp/

● ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについては、48ページをご覧ください。

日本ビクター株式会社
〒221-8528　神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

0106YHMMDWJEIN